

特集

老人ケアのゆくえ

—死ぬまで京都でくらしたい—

1993年度保存版

京都 それぞれの京都論
TOMORROW

1993/5
Vol.2-No.5

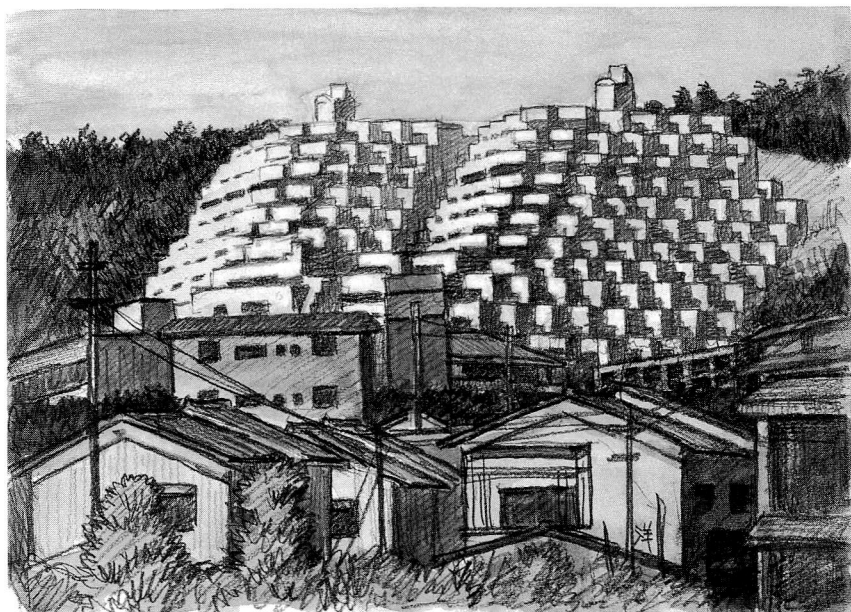
隔月刊

座談会・女たちが語る
在宅看護の体験
老人ケア情報

京都市「福祉サービス」一覧表
京都市・老人福祉対策を数字で見る
介護のためのインフォメーションコーナー
とおき民間情報・福祉サービス区市町村の試み・他

現場レポート

有料老人ホームを訪ねて・1日体験記
「居宅医療部」20年の歩み・他



死ぬまで京都でくらしたい

西山の里、桂の高台に建つ「ライフ・イン京都」。

京都市内で最も規模が大きい有料老人ホームである。

このユニークな建物は「飛翔」がテーマ。地上十一階（地下一階）建ては飛ぶ鳥をあらわし、左右対称で大きい翼を広げている。総戸数は二二八戸で一DKから三LDKまで七七タイプの居室があり、現在二八五名の高齢者が住居して、九五組が入居の予約をしている。阪急桂駅まで専用バスで十五分、河原町まで電車で十分の便利な都市型。一九八六年にオープンした。

従来の養護老人ホームや特別養護老人ホームとはスタイルもシステムも異なる新しいシニアハウス。日本では十年前あたりから、いちどきに次つぎ建ち、最近なお、その数も種類も増えている。

京都市では今、六施設を数える。それぞれに形も質も歴史も多種多様で個性的。その意味で関係者は京都を全国のひな型、一つのモデル地域のようなという。

友がいる人少ないひと、お金を持つひと持たないひと、元気でいるか寝たきりになるか、いずれ二十一世紀を目の前に厳しくなる高齢化社会。だがこの国の対応は著しく遅れ、永続性をもちながら老年福祉の歴史は浅い。ニュー老人ホームも設置運営の今むつかしい時点にさしかかり、ひとびとのニーズに合わせて模索と冒険の日々が続く。

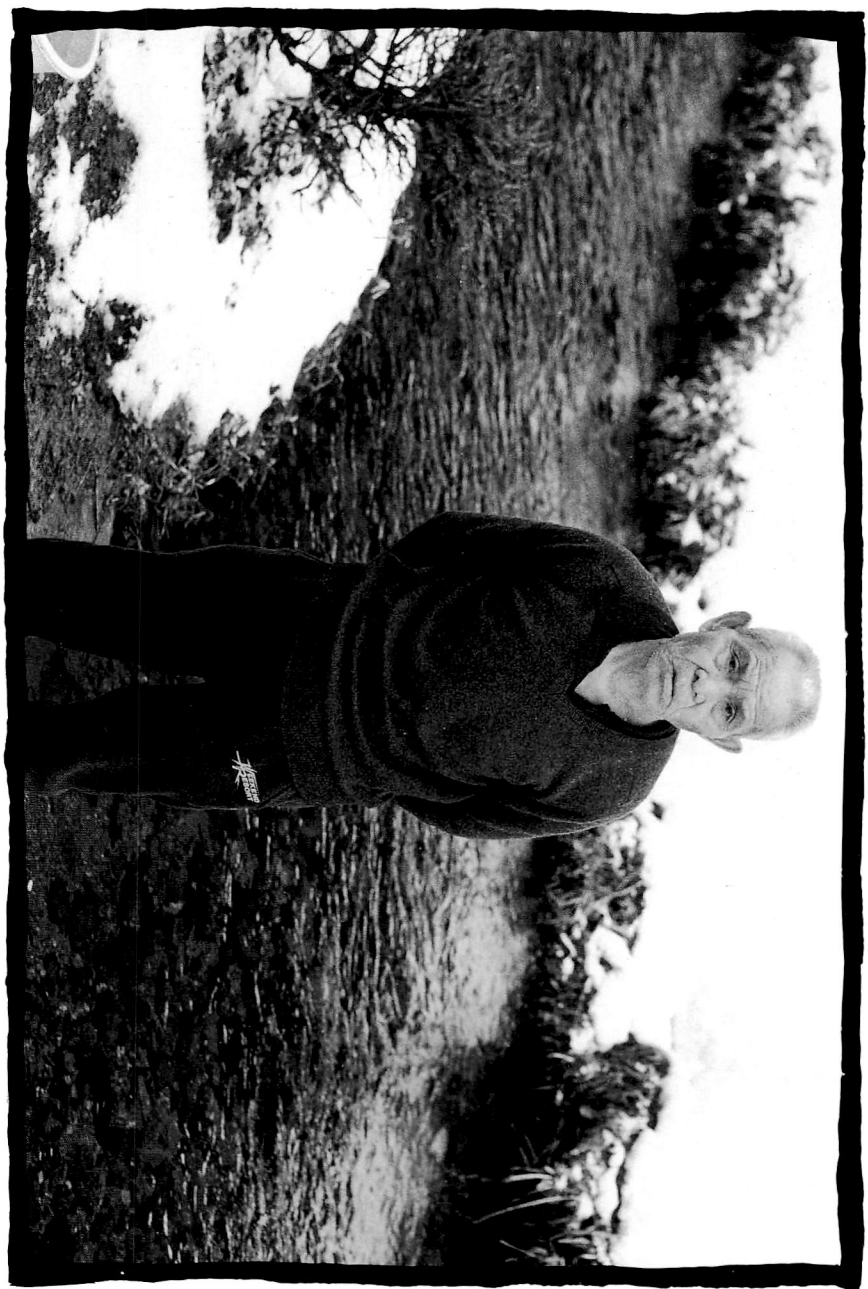


きょうと

北の風(二)

倉本義久

西上徳一郎さん 満八十八歳



高橋しのぶさん 満八十一歳



1993年3月20日
京都市左京区広河原尾花町にて



丹波広域基幹林道
京都市左京区花背大布施
1993.3.20

特集 老人ケアのゆくえ

—死ぬまで京都で暮らしたい—



「老い」がしのび寄って来た時、人はそれまでの生き方を試される。「老い」とは近代、理不尽そのものだからである。

私たちに等しく訪れる「老い」をどうとらえるか。個人においては、まず哲学として、社会においては文化、社会制度の問題としてあらわれる。

私たちは他者の「老い」についてどのような関係をつなげているのか。自らの生に「老い」をどこまで受容できているのか。

とりわけ女性たちには老親、夫の介護という課題が切実に迫っている。そのたび毎に仕事をやめるなどの人生の選択をし直さなければならない。何故「女」だけがこのような情況にいつまでもあるのか。

その歪み、その理不尽さを前に声なき声、つぶやきを女だけの問題にせず、考えてゆきたい。経済大国日本と呼ばれていても、福祉制度の貧困は目をおおうばかりである。どこをどのように変えてゆけばよいのか、創ればいいのか、男と女の共通の課題にしてゆきたい。「痴呆」とは老いてゆく自分が認められないことが原因で生じる関係障害であるという。「老い」を受けとめるということは、社会制度を充実させるだけでは不十分なのだ。

「老い」から「死」へ。心の成熟、心の平安に向けて、今後、私たちは取り組んでゆかなければならないのではないだろうか。

今、「老い」について京都はどのような状況にあるのか、ケア情報を中心に高齢者福祉の現場を追ってみた。

● グラビア きょうと北の風 二 写真／倉本義久

老人ケアのゆくえ

死ぬまで京都でくらしたい

■ エッセイ

絶望と疲労の中で 樋田 劭

遺された言葉 平田ひと江

老いと性 加藤 清

闘いとうろつ、女の未来 山本澄子

■ 座談会

女たちが語る 在宅看護の体験

岡田貴代子／横山康子／朝倉ゆるぎ／天野咲子

■ インタビュー

■ 探訪

京都市「高齢化対策推進計画」を聞く
有料老人ホームを訪ねて その一

京都ヴィラ／シルバーホーム衣笠／市原寮

「居宅医療部二十年の歩み」 堀川病院

「生きがいは逝きがい」 バプテスマめぐみ会・バプテストホーム

「ライフ・イン京都」一日体験記

■ 情報

精神医療と痴呆老人のゆくえ

アテンドサービス士育成の試み 平安看護婦家政婦紹介所

京都市「福祉サービス」一覧表

数字が語る京都 ③

介護のためのインフォメーション

御存知ですか、厚生年金保険サービス 坂本淳二

とっておき 民間の情報

宇治コーポラティブハウス／銀ちゃん便利堂／
京都生協くらしの助け合い活動／京滋有料老人ホーム表

福祉サービス・区市町村の試み

老いを考える一二冊

☆シルバリング — 15 ☆世界の高齢者は、今 — 19 ☆映画・ビデオ紹介 — 42

●五島列島紀行文 ①

遙かつづく海、恵みの島

高橋幸子

48

●TOMORROWライブラリー

『精神科主治医の仕事』

塚崎直樹・著

京都発新刊三冊 『京洛名水めぐり』 『京に蠢く懲りない面々』 『人と景観の歴史』

●べんちゃん日記 ③

唯野弁太郎

54

●TOMORROWインタビュ

榎木弘次さん

あでやかな京扇子、その骨とつきあつて

56

●TOMORROWジャーナル

京都市議会、お前もか／京都市予算に見る

イラスト時評 石川裕二

60

●TOMORROWひろば

●くらし

現実と創造のはざままで

沢田都二

59

●建築ウォッチング

建築探偵団調査⑤

祇園石段下街路灯 田満字洋介

62

●ギャラリー

画廊への招待

人見ジュン子

64

●京・若者発

インド雑感

弓場律子

65

●ステばあさんが行く⑤

只今心がややこしい

神楽岡ステ

66

●あぴーる

芸術でロシア支援を

67

疲労と絶望の中で

——— できることから一歩ずつ ———

槌田 劭

(京都精華大学教員)

背すじから生気が脱けてしまったかのように、ぐったりとした疲れが全身を支配する。はげしい長時間労働の後ではない。仕事らしい仕事とも関係がない。

つい最近まで義母が入院していた整形外科の病室を見舞うたびに、生気が吸いとられ全身がもぬけの殻となったような疲れともいいがたいが、疲れとしか表現しようのない状態になった。病室には表情も笑いも失った老婆たちがだまって座ったり寝たりの時を送っている。その重苦しい空気は尋常ではないが、異常ということでもない。きびしいといわれる高齢社会の現実、その予兆なのである。

恥ずかしいことだが、その重苦しさは細い神経には耐えがたい。そのような気分を癒すため、喫茶店で時を過ごした。たのしそうに笑い、おしゃべりに興ずる若い女性たちの姿を眺めて、異次元世界かと戸惑ってうろたえた。フルーツポンチやチョコレートサンデーを食べ、か

つ、しゃべる口は休むひまもなかったが、無声映画を見えるような情景と見えたからである。そして、何よりも、白髪まじり初老の男が若い女性たちを呆けた顔で見つめている図のおろかしさに気付いてハッとしたからである。それにしても現実はいきびしい。その中でも非情なのは加齢である。若さをたのしむ女性と病院の老婆たちとを分けるおおきな現実の差も、わずか半世紀の差でしかない。その非情さは万人平等であるが、若い方と老いの過ぎ方は不平等であり、社会の状況に支配される。そこに私たち一人一人の課題の重さを秘めている。

よく言われるように高齢化社会は目の前にある。二十一年の後には日本の総人口はピークを迎えると予想されており、中でも六十五歳以上の高齢者が倍増し、総人口の四分の一を占めるだろうという。他人事のような遠い話ではない。団塊の世代が老人と数えられるときのことである。その頃には痴呆老人は百五十万余、寝たきり老人

は二百万余とも予想されている。うなぎ上りの急増であつて、五十代の世帯の半分がその世話にふりまわされることとなるのだという。おしゃべりに興ずる女性たちの背後にしのびよる黒い影をいうわけである。

老いは病いと道づれである。どの病院も老人たちであふれている。がんなどの難病や成人病などの増加はすでに深刻な社会問題である。国民医療費はうなぎ上りであり、高齢社会への流れにその負担は確実にふえる。金余り金満の日本にも、すでに悲鳴がきこえはじめている。遠からず財政の破綻することは避けられぬといった声とともに、老人年金の支給年限がくり下げられることになったが、それ以前に老人医療の無料制も消えてしまった。厚生省は老人医療費のさらなる削減のため、老人の社会的入院にきびしい施策を次々に講じており、老人の長期入院は不可能となり、病院たらい回しのようなことさえめづらしくなくなった。現代版うば捨て山現象は一層冷たく深刻化しているのである。

行財政的理由にもとづく冷たさの中で、社会的家庭的な暖かさは期待できるのだろうか。もの豊かさをもとめて展開した高度経済成長下、「家つき、カーつき、パパ抜き」に象徴される冷たいニューファミリーは、老人を受け入れる余地を失ってしまった。

きびしい経済戦争の中でたかう男たちには、「粗大ゴミ」、「産業廃棄物」としての未来に備える余裕さえ残

されていない。「痛動」に疲れ、ねぐらの所在地以上の意味を地域に感ずることもできないからである。女たちも、好況時の補助的労働力、そして不況時には削減要員としてパートの仕事にいそがしい。地域における社会参加の機会はますます少なくなった。

行政に多くを期待することもできない現実の中で、家庭や地域にも展望が小さいなどと思えば絶望しか残らぬことになる。現実を冷静に観察すればするほど、暗い気分になる。身近な老人たちの現実と重ねれば、暗い気分などといったことではおさまらない。自分自身の二十年あとも思えば表現すべき言葉もみつからない。しかし、他人事ではない。何とかならぬものか、ではない。何とかしなければと思う。

このような現実をつくり出したのはお金第一で動いてきた政治と社会である。その没落は近く、年金もあてにならぬし、貯金もインフレで消えるだろう。お金にたよる生活をあらため、政治と社会を変えることの必要を思う。そのためには、自分を変え、地域を暖かくすることなのだろう。むづかしいことだが、暗い気分になっても仕方がない。できることから一歩ずつである。

過去二十年、さまざまな市民運動にかかわって、すばらしい友人知人を得たことをうれしく思う。この輪が自己変革互助協同の基礎なのだと自らを励ましたい。

女たちが語る

在宅看護の体験

【出席者】（発言順）

岡田貴代子（46歳）

横山康子（56歳）

朝倉ゆるぎ（39歳）

天野咲子（62歳）

折田泰宏（司会）

1993・2・24 事務所にて

——本日はお忙しいところをありがとうございます。それでは、早速、皆さんのご体験をお聞きたいと思います。

岡田 四年前に今八十歳の父が背骨を圧迫骨折いたしました、入院してから痴呆症状が出ました。病院に置くよりも元の環境に戻した方がいいんじゃないかということに家で連れて帰りました。けど、ゆるやかに年老いてきているという感じです。現在のところ痴呆といっても完全に分からないというのではなくて、穏やかな痴呆というんでしょうか。比較的やり易いです。

一番困ることというのは、やはり下の始末が自分で出来ないことです。長く寝てますとどうしても足が弱ってきますので、自分で歩けない。食事は自分でしてくれまして調子のいい日はまだいいんですけども、これで食事も一人では出来ないということになると、私一人ではどうにもなりません。その時にはヘルパーさんなどのお手伝いなどをいただかないか、と思ってます。

横山 私の両親は近くにいますが、まだ元気で自分たちでやっています。

今年二十三歳の娘が二十歳の時に、ソリから放り出されて背骨を一本骨折し、下半身不随といわれましたが、治療をして今は普通の生活が出来るようになりました。私は看病とか付き添いとかは、その時が初めてでね。上を向いて寝てるだけで、体が動かないでしょ。病院で

娘の頭を洗ったり下の世話をしたりしてる時、自分が看病の仕方を知ってたら全然違うだろう、他人事じゃないと思っただけです。車椅子は特殊なものだみたいに思ってたけど、私たち皆その予備軍みたいなもので、ああこれは技術として知っていないと駄目だと思いました。娘を病院から自分の家に連れて帰った時に、ハタと気が付いたのですが、道から家に入るまでに階段があるでしょ、家の中は敷居が飛び出てるでしょ、そんなの今まであまり意識なくて。

で、大阪の生命保険会社主催の看護の実地の講義を聞きに行ったんです。京都で探したら、福祉協議会主催の回数の多い講義がダラっとあるんですね。私はあんな回数時間がとれないんですね。実際役に立つ講習がありましたね。何でもかんでも道具を買わなくても、緊急の場合はこれでまずは間にあいますよというように、すごく役に立ちました。

それと、父は体が細いですけど母はね。それを見ると、今自分にできることは体重を減らしておくことだと思いますね（笑）。

講習会に行きますと、車椅子に座ったまま風呂に入るとき、二十センチ以上はお湯を入れたらいいかもしれませんとかいうけれど、それは違うと思います。いかにたっぷりとしたお湯につかったら気持ちいいか、そのためにはどういう道具が必要かと考える必要があります。またリフト

も自分でやったらいかに怖いかとか、そのような道具がいざという時どこにいったら借りれるとか、その現状を把握しておかないといざという時にうろたえるだけですね。

岡田 そうなんです。エライことやと思ってその時初めてどうしようかと思って、道具を買ってきて、具合が悪くって、それでまたそれなりに自分の家の方法でやっていくんですね。そういう風に早くから用意をしておけば良かったんですが、でも多分他人事だと思ってたんですね。

横山 私の場合娘でしたが、父は八十八歳、母は八十三歳ですからね。皆障害者の予備軍なわけでしょう。みな同じですよ。でも両親は自分たちは違うんやというんです。実際すでに耳が遠くて、私が行ったらテレビの音がガンガンしてるわけです。それすら二人で住んでて気が付かないわけです。大きい音に慣れてるから。

朝倉 私は一人娘で結婚して京都に出て来ますが、七十六歳の父と七十歳の母は紀州にいます。母に痴呆がでてきたのは多分ずっと以前からだと思うんですが、私も年に二、三回ぐらいしか帰らないんで、対応が変だな、変だなと思いつつそのままだんです。ところが、だんだんおかしくなって、私も一カ月に一度くらいは行ってたんですけれども、次第にめっちゃめっちゃになってね。

父が腰痛で病院に入院することになったのですが、痴



呆の母を連れて一緒に入院しなきゃいけなかったんです。それで父母を入院させて京都に帰ったらすぐ父から電話がかかってきて、母が行方不明になったから付き添いに来てというんですよね。でも私もこちらで家族があるのでなかなか行けないということで、その時は家政婦さんを頼んだんですけども、一日一万五千円ぐらいかかるのかな。一カ月で五、六十万円。

その町に特別養護老人ホームがあったんで、できたらそこに母を入れたいと思ってたんですけども、そこは痴呆の場合には、少し離れた市の精神病院の方に入所というふうになっていたんです。それではかわいそうじゃないかと思って、随分悩んだんです。ところが、たまたまショートステイの場所が見つかって、二週間という期間を二回つなぐことで一カ月、それだけでもとりあえずホッとしたという気持ちで連れていったんです。

その後も、町の方がショートステイの面倒を見てくれまして、三ヶ月繋いでくれたんですが、その後が困りました。たまたま老健施設があって、そこならなんとかという話があったんですが、七十歳以上じゃなきゃいけないということで、当時六十九歳の母では駄目になりました。しかし、たまたまショートステイしていた施設がひとつ空きましたので、そのまま正式に入って一年になるんです。

皆さんが自分の親を介護してらっしゃるのを聞きますととてもつらくて、自分は現実にはしてないんですよ。施設に入れたというのがつらいのと、施設に入れた母の夫である父親が納得していない。そういう施設に子供に入れられたという感情ですね。私としては最良の方法だったと思うんですが、父は子供である私に恨みをもっていて、私との関係がまずいんです。

でも私はこの選択しかなかったんですね。ここ一年施設に入ってみていると、かなりケアがなされているので、症状としては落ち着いていると思いますね。

母は落ち着いたんですね。田舎のことですから父は外食という感覚がないんですが、田舎ということで助かっているのは、親戚とか隣近所の方がおかずを持ってきてくれたりとか何かと気をつけてくれて。父は傷痍軍人で腰が九十度ぐらい曲がってるんですが、農業と製材の仕事は今もやっていて、止めるように薦めても、生きる張りがなくなってしまうということで仕事をやってるんですね。私のところにきて暮らしたらというんですが、わしをここから引き離してわけのわからん町に連れていくということですよ。私のように親をおいて出て来た場合、親世代の生活をどう考えていくのかということが問題になります。単に身体的なものをどうしてあげようかという話ではなくって、親が生きてきた環境とか物の価値観とかどう対応するのかということだと思いますね。父は、自分が田舎にとどまって、お墓とかを含めて先祖のあとをつぐ、そのことが自分が生きてきた継続だと考えているんですね。

天野 私の夫は肺水腫でしたが、入院は一年半ぐらいで、完治という形ではなかったんですが、家に帰ってきて養生していました。去年の四月に亡くなったんですがその

前年の十月頃からはもう寝たきりでした。

主人は死ぬ時でも七十四キロありました。お風呂は子供と二人で入れました。

私は三十二歳で結婚するまでは、会社に勤めながら母も長く看護してきました。会社は大阪でしたけど、毎晩母が入院している宇多野に通いました。一応完全看護でしたけど。兄は母が死ぬまで転勤、転勤でね、あれは意図してそうしてたんかしら（笑）。昔からの日本の家族制度の慣わしですとね、やっぱり長男ですからね、で、私がそのために結婚できないこと分かるじゃないですか。結婚した姉ですら、自分の親なんやから少しはと思うんやけど、私は結婚したからもう違うと言うんですね。私と価値観のよく似てるお友達は、お母さんが弟と暮らしているお里に帰る時は、弟のお嫁さんに十万、二十万円をつつんで帰らします。今日は一晩自分が相手をするからすきにして、というて。

その母を見送った時に、子供にはこういう思いをさせまいと思いましたね。それから四十年間ずっと自分が死ぬ時の用意を考えてきました。

■ 男の自立と意識改革が必要 ■

横山 男の人が台所のことをしないことが問題だと思います。父はね、母がさせてないから当然できませんが、

私の主人は自立してもらおうようにしてまます。それは主人のためでもあります、自分のためであつて。

天野 うちの場合は倒れるまでは自分の食べたものを台所にもつていつて、気分のいい時は洗うぐらいはしていいました。ただ杖をついてましたから立つてのがつらくてしなくなりましたけど。私はお友達に男の子ができたら台所に立たせるように言っています。

横山 家事は女がするもんやという觀念が問題じゃないかと思ひますね。私は五人兄弟の長女なんです、たまたま両親が近所にいるからちよくちよく様子をみてます。弟が一人いますが、そのお嫁さんが両親を見なくてはならないとは思つてません。兄弟みんなで見なくてはと思つてます。

天野 この問題は男の人が、そうですね三十代以上の男の人が意識を変えたら全部解決する問題ですよ。

老人介護に関する講義に男の人は全然来ないんですよ。男の力が本当は必要なのに。俺は関係がないと思つてらっしゃるんじゃないですか。女の人ばかりかし。もしおばあちゃんがそうなつて、おじいちゃんが元気でいてはる時は、娘がいても傍らでお父さんの世話ぶりを見ているぐらいのことが必要やと思ひますよ。

岡田 老人問題の一部はまさにそこにあると思ひますよ。一部やなくて全部かもしれないけど。

施設に入れる、 施設に入るには抵抗がある？

——年をとつて、寝たきりになつた場合には、いずれはどこかの施設に入れざるをえない。今日出席しておられる方はそういうところに親を入れることに抵抗感がありますね。それにご老人自体にも抵抗感がある。その抵抗感は何だろうかというところを話してもらえますか。

天野 ひどい夫もいますでしよ、自分の両親の看護で妻を酷使してきた。そういう人の奥さんははっきりと言われますよ、主人の老後はお金で解決したい、病院に入れてしまふと。でも人には、出来るだけ家でみたいと思ひますといつて（笑）。

岡田 京都のショートステイの施設はみんな見に行きました。パプテスト病院も行きましたが、あそこがいま一番いいと思ひますし、今そのデイサービスに週に一度行つてます。それでもやっぱりずっとお願いしたい気にはならないんですよ。本人も家から出たくないというし。母を連れていろいろ有料老人ホームを調べたんですが、入つておられる母の友達などの話を聞いても、「岡田はん、そんなにいいことおへんで」と。寝た切りになつたらその施設にはおられないということが問題だといつてました。で、母もいやだというし、私も本当に預けて快適に暮らせるのであれば預けたかもしれませんが、わ

がままな人ですから元気な間は預けたくないなと思っています。

しかし、私は倒れたら病院に行きます。在宅で看護するのは私たちの年代が最後だと思ってます。

天野 私は野垂れ死に賛成。

朝倉 痴呆の母の入っている施設にいくと、そこに入っている人達と親しくなるんですね、この間手の骨を折ってたけどどうかとか、いろんな話がでていく中ですね。最初確かに冷たい感じがあって涙もでたけど、もしかしたらそこに居れば居るでそうじゃないんじゃないかと。痴呆

ニューエイジの“草の根”

京都シルバリング

一九八七年発足したシルバリングは、リタイアした後も特技やキャリアを生かして仕事を作っている人と、上下関係がない横の繋がりを重視した草の根の輪。現在の会員は五十名。京都の“新町衆”を指している。

七つの塾には、今すぐ役に立つ実用書道の“毛筆”、八十三歳の生徒がイキイキ通う“英会話”“実年”がテーマの俳句、川柳教室。ゆったり着られる“着つけ”。他にも早川一光氏率いる一泊二日イキイキツアー。京の寺を歩くツアー、日本舞踊などがある。シルバリングの草の根も定着した今、ニューエイジの充実に向けてさらなるステップを模索中だ。

連絡先 京都市中京区麩屋町通り二条下ル西側

☎〇七五―二二三―五二八二

年会費一万円。塾には誰でも参加できます。

呆の母のケアをみると、そこに何かあるんだと思うんですね。私の母の入っているところは痴呆老人専用なので、普通ならベッドに閉じ込められるとか動きまわれないようにしてあるそうなんです。そこは学校みたいに広くて中は自由に移動していいんですよ。

横山 私たちの両親の場合はまだ施設に入れることは出来ると思う。だけど私たちの時は数が足りないから多分入れないと思います。だからどうするかという問題があって、自分で自分の最後をどうするかという。

岡田 避けて通りたいとは思いますが、避けて通れないものがありますね。交通事故で死なない限り。

横山 私は心臓病でいろいろ食事療法とかやってるんですが、死に方というより生き方、死ぬまでどう生きるかという。それを現実はどうやっていくかをやっていかなと。

ケア情報をどうして手に入れるのか

岡田 私なんかほんとに勉強不足で、現実につづかって初めてえらいことやということで福祉事務所なんかに入りますでしょ、そういうのはどうやって勉強なさるんですか。

天野 網をはっとくんです。高齢者社会を考える会とか新聞とかにも出てますでしょ。松香堂さんにくとこ

んな場合はこんな会があるとか情報はいりますし。

——行政側にも制度は結構あるんですがあまりPRがされてないんですね。あまり利用されてないんです。

天野 いっぱいあるけどそれをあまり利用されると困ると思ってらっしゃるように思う時ありますよ。私は主人のために一級障害者の手続きを九枚程書類を書いてしたことがあります。で、私はどれぐらい手続きに時間がかかりますかと聞いたんです。何故ならそれをもらってたら補助がでるといふから。主人は四月に亡くなったでしよ、手続きをしたのは二月です。で、四月の半ばか遅くとも五月にはなんとかなるでしよと言わはるんです（笑）。私が書類をもって走ったらいけませんか、二カ月もかかったら主人は死ぬかもしれないと言ったんです。けどそれはしょうがない、審議するのにそれぐらい時間がかかりますから待てと。市民新聞にも行政側の情報が出ていますが、あれではピンとこないですね。民間の情報は入ってないし、やっぱり自分のアンテナをピンとたてないからね。

朝倉 私はやっぱり一番有効なのは福祉事務所に行くことだと思っんです。そこへ行って本当に困ってると言えれば行政も見捨てられないですよ。母の時に必死でしたよ、で、たまたま空いたんじゃなく優遇してもらえたと思うんです。確かに審議は一カ月に一度ぐらいしかないかもしれないけど。

ショートステイ、デイサービスの実態

——ショートステイ、デイサービスを利用したことがありますか。

岡田 ショートステイじゃなくデイサービスを利用してるだけでも、最初は三カ月に一度更新しないといけない、これは何なんだと思いましたね。

朝倉 ショートステイは最長二週間ですが、私の場合はすぐ使えましたね。

天野 京都の「健康園」は順番待ちの状態と聞いています。

——岡田さんはデイサービスを使っておられるんですが、どれぐらいの割合ですか。

岡田 一週間に一度しかないです。ですからうちで風呂呂に入れない人の場合は少なくとも二回は入れてあげたいなと思うんで、一週間に二回と言ったら、いや一回ですと。パプテスト病院は送迎サービスはあるんですけど、私の所は地域外なんで私が送り迎えをしています。東山区に四年前はまだデイサービスをする施設はなかったんですよ。つい最近「洛東園」にできました。

天野 小学校の跡地が出来てきてるんですから、もっと違った形で宅老所でもいいから何かできないかなと思うんですよね。

——今デイサービスは市の基準としては週に一回ということですか。

岡田 はい。うちは私が送り迎えをするから一週間に一度いれていただいてますけど、寝たきりの人たちは二週間に一度です。だから体を毎日拭かないと。

——サービスは入浴だけですか。

岡田 いえ、お食事とがあります。私のところは皆さんと一緒に何かするのあまり喜ばないのと、私が午前中出る時間が遅いのでお昼ぎりぎりに連れていってお昼の食事をいただいてお風呂に入って帰ってきますが、皆さんはおやつとかなさってます。

横山 配食のサービスとかはありませんか？

岡田 バプテスト病院はありますが、私のところは地域外ですから。

横山 私が調べた時は、同一市町村に肉親がいる場合は絶対だめでした、三年前はどんなサービスでも受けられなかったのです。一昨年くらいからしてくれるようになりました。

付き添いさんは、二人いる？

——付き添いさんのことですが、お願いされたことはありませんか。

岡田 福祉事務所にヘルパーさんをお願いしたことがあ

るんですが、一回二時間（現在は四時間）とか制限があるんですね。で、お願いするならもう少し長い時間とと思うんで、一応聞きには行っただんですがまだ一度も使ったことはありません。家政婦さんは寝たきりの老人はいやがりがあります。何割り増になるとか。ですからもう個人で対応するしかありません。下の世話まではしてくれません。だから、家政婦さんを二人付ける人もあります。お台所のことをしてくれる人と介護をしてくれる人と。だから一ヵ月それだけで百万円いるといっただけでした。

——民間の家政婦さんの協会から呼べば一日約一万から一万五千円ぐらいですか。

天野 京都市老人福祉センターというところへ頼めば安いです。

横山 安いんでしょうが、時間が短いでしょ、で、見てたら自分がした方がよっぽど気を使わないし、ベテランだしと思いますね。お年寄りの話相手だけとかいろいろあるけれど、それにしても二時間というのは短いですよ。——それと、需要が増えてくるとそれだけ質が低下するということもありますね。

天野 本当はこういう時に隣組の出番があってもいいと思いますけどね。

——どうもありがとうございました。

（記録・松田普美子 まとめ・折田泰宏）

特集 老人ケアのゆくえ

遺された言葉

平田ひと江（ホームヘルパー）

ホームヘルパーになって九年になる。「ぼくがここであつて暮らしているのも縁、あんたがぼくのところに來てくれるのも縁」と訪ねたお年寄りに言われて、味わいのある言葉だと思った。縁あつて交わりを得たお年寄りの多くは亡くなったが、遺された言葉は年々に意味を深めていく。タミさんもまたいくつかの言葉を遺してくれた。

「去年まで自分でなんとかやってきました。あかんようになりましたね。掃除もできません。ボタンをとめるのもなかなかです。掃除してください」。それがタミさんの最初の要求だった。夫にも息子にも先立たれて、ひとり暮らしタミさんは九十歳になるまで大病もせずだったが、この一年で足腰は弱りよく転倒した。右腕の神経

痛は悪化し指先は思うように動かなくなった。火の消し忘れや金銭管理もおぼつかなくなった。「ごめんなさいね、お経も忘れて」とお詫びしながら、毎朝仏壇にお茶を供えることは欠かさなかったが、「右手がいうことをきかないので、左手で手伝うてやる」という。もうタミさんのいうことをきかなくなった手や足のかわりに、ヘルパーの手足を手伝わせて、生活はどうか継続した。が、タミさんが必要としたものは具体的な生活の支えだけではなかった。「今日は何もしなくていいから」と私を座らせて、タミさんは話し続けた。「おとつい寒かったですね。この冬一番の寒さでしたね。あの日の朝に、とうとう死んじゃった、ヤエさんが……。きのう葬式でしたよ。見送ろうと思って、身づくろいしたものの足がぶるぶる震えて動けないんです。どうにもなりませんでした。ヤエさんは私と違って世話する子があつたですけど、すっかり呆けて、悪くなって入院したのに、点滴はとる、オムツははずすで帰されました。あんなになる前によううちに來てました。『あんたとこがあればこそ』言うて。私は早うから炬燵入れて、食べさせたりもしました。元気なうちにいろいろしてあげたから、見送らなくても許してくれると思います。それでも、こう、胸にたまります」と。縁ある人を何人も見送ってきたタミさんは「次は私の番ですね」と言った。その言葉通りに、一年も経たずにタミさんは逝ってしまった。

「おかわりありませんか」と私は訪問のたびに口にす
る。それは次の瞬間には移ろう命への祈りのようだ。命
は大きな流れや小さな流れにたゆたいたいながら、生涯から
死滅まで静止することなく変化していく。人は乳幼児期

世界の高齢者は、いま

★日本 高齢者の子どもとの同居率約60%（1987年）「家族愛・忍耐の美学」に頼り、貧しい福祉を黙認する「軽」老意識が寝たきり老人大国を生み出している。

★イギリス 子どもとの同居率7%（1985年）。高齢者の自立心と民間ボランティア活動に特色。サッチャー首相登場以降、在宅福祉の推進とシルバービジネスの奨励が2本柱で、「元」福祉国家になりつつある。

★スウェーデン 子どもとの同居率はほぼ0%。「介護休暇制度」「家族ヘルパー制度」があるため、介護は無償の家事ではなく有償の労働として位置づけられている。

★デンマーク 自己決定の尊重・継続性の尊重・残存能力の活用の高齢者サービス三原則をうち立て、介護サービスは福祉ではなく国民の権利という意識。「寝かせきり老人」のいない国。

★アメリカ 老人ホームの75%が営利企業経営のシルバービジネス。なお移民が介護職の主力となっている。娯楽活動・ボランティア活動も盛んであるが、中流家庭は老後破産の不安の中にいる。

★シンガポール 宗教を大切にし仏教団体の経営する老人ホームは安心できると好評。徹底した在宅介護主義で公的福祉は遅れがち。老人ホームを支えるのは外国人移民労働者である。

にめざましく成長してさまざまな機能を獲得していくが、それをまるで逆転させたように、老齢期は多くのものを失っていく。「赤ちゃんに帰っていく」と感じることもあるが、老いの現在にはその人が生きてきた人生が深く刻まれていて、看取る者に生きることの意味を問いかけてくる。日常のなにげない行為のひとつひとつ、食べること、眠ること、歩くこと、仕事のできることで、家族との団らんがあること……、それらがどれほど有難い大切なことか気付かせてくれる。いまここにある縁はかけがえなく、一瞬一瞬を愛おしみ、味わうことを教えてくれる。

タミさんの炬燵の上には、日めくりと腕時計がきちんと置いてあった。タミさんと共にした時間は私の内に刻まれていて、個体の死を超え、遺された言葉が現在に生き続けている。「胸にたまるもの」を分かち合ってほしい。「私の傍に座って、ゆっくりと話を聞いてほしい」。それは何よりも「心のごちそう」とタミさんは言った。タミさんが最期まで求め続けたものは、温かな、ぬくもりのある人との交わりではなかったか。老いの日々には人はずかしの喪失を体験するが、それに圧倒されることなく、怖れずに老いの現実を生きたためには、他の人々からの温かい、理解に満ちた働きかけを必要とする。「人は誰もが孤立しては生きられない」とタミさんは言いたかったのだと思う。

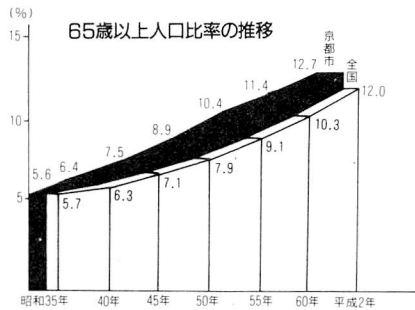
京都市 「高齢化対策推進計画」 を聞く

日本人の平均寿命が急速に延び、21世紀の始めには四人に一人が65歳以上という、世界に例のないスピードで高齢化社会が訪れる。1989年に策定された国の「高齢化保険福祉十カ年戦略」（ゴールドプラン）にとともに、1990年には「老人福祉法」の一部が改正され、住民に最も身近な「市町村」の果たす役割が最重要視される。京都市高齢化社会対策部高齢企画課課長・中筋さん、課長補佐前田さんに京都市の今後の福祉対策を伺った。

——高齢化が進む中で、京都市の現在の取り組み、また、今後の計画は。

今回のゴールドプランのように大規模な国の打ち出しは初めてですね。京都市も今提出のため最終の実務作業に入っているところです。

京都市では国に先がけ昭和五十九年から高齢化対策に取り組んでいます。平成二年の実態調査を経て、昨年「京都市高齢化社会対策推進計画」を打ち出しました。内容は①就労と所得保障②生涯的な保健医療体制の確立



高齢者保健福祉推進10カ年戦略の現状

	平成2年度	平成3年度	平成4年度	整備目標
在宅福祉対策の緊急整備	ホームヘルパー (+4,500) 35,905人	(+5,000) 40,905人	(+5,500) 46,405人	100,000人
	ショートステイ (+3,400) 7,674床	(+4,000) 11,674床	(+4,000) 15,674床	50,000床
	デイサービスセンター (+700) 1,780か所	(+850) 2,630か所	(+850) 3,480か所	小規模も含め 10,000か所
	在宅介護支援センター (創設) 300か所	(+400) 700か所	(+500) 1,200か所	10,000か所
施設の緊急整備	特別養護老人ホーム (+10,000) 172,019床	(+10,000) 182,019床	(+10,000) 192,019床	240,000床
	老人保健施設 (20,000) 47,611床	(22,000) 69,811床	(20,000) 91,811床	280,000床
	ケアハウス (+1,500) 1,700人	(+3,000) 4,700人	(+5,000) 9,700人	100,000人
	高齢者生活福祉センター (創設) 40か所	(+40) 40か所	(+40) 40か所	400か所

③住宅・住環境の整備④生涯学習と社会参加⑤高齢者福祉の充実⑥地域での福祉の推進と情報提供⑦計画の推進の七分野であり、今後これらを基本に具体的に計画を進めて行きたいと考えています。

——有料老人ホームですが、公的な老人ホームは申し込んでもすぐには入居できない状況です。ネックは。

平成三年頃からホーム入居希望者が急激に増えてきたことにもよります。一つには国の医療費の抑制策ですね。現在国の医療費は年間一兆円ほどずつ増加をたどってい

ます。二つめには、医療機関でのお年寄りの比率が多く診療報酬の減少、若い人が入院できない状況ですね。病院側ではできるだけ施設や家族の元へ離していく政策がとられたことです。結局、在宅で看たくてもできないことなどからホーム入所希望が増加しました。

—— 一年から三年の待機も珍しくありません。市の対策は。

市内でホームを一つ建てる場合、約一千坪土地を確保しなければなりません。この土地代が大きなネックとなっています。さらに市内では歴史的文化遺産、風致地区も多く、簡単に山を削って開発することはできません。その中で土地を捜しているんですが、市内のお年寄りは最期まで住みなれたところにいたいという希望が多く、これらのジレンマに悩んでいます。現在、特別養護老人ホーム二十二カ所、養護老人ホーム八カ所と延ばしてきましたが、今後も増やしていきたいとは考えています。

—— ホームは四人部屋がほとんどで、プライバシーに欠けます。個室化の計画は。

現在、国の基準は四人部屋です。古くは八人部屋もありましたから年々変わってきています。お年寄りの人権を守ることは大切なことですし理想をいえば個人部屋です。しかし個人部屋を作ると五十人入れた人が三十人に減る。残りの二十人をどうするか。土地代、建設費確保などのハード面、看護体制のソフト面、合わせて市民の

負担は大きくなります。京都市など指定都市ではホームを作ることさえ困難な状況です。常に念頭には入れています。現在は四人部屋でのクロス、カーテン、採光などお年寄りの住み易いインテリアに力を入れています。

—— 高齢化対策として在宅介護がおおきな位置を占めていますが、手続きが煩雑、また、情報がなかなか得られません。

現在、在宅介護の福祉サービスとして、家事、介護の援助をしてくれるホームヘルパーの派遣、デイサービス、ショートステイ、老人訪問看護ステーション、保健婦の訪問指導、寝たきり老人の歯科診療、日常生活用具給付、緊急通報システム、老人福祉員の訪問などがあります。困ったことや解らないことは、中央老人福祉センターやそれぞれの区の福祉事務所に相談や申し込みをしていただきたい。また、京都市には現在十三カ所に在宅介護支援センターを設けて、サービスの紹介、手続きの代行、介護方法、介護機械の使い方の指導を行っています。将来このセンターを増やしていきたいと検討しています。

さらに市には二百五十の小学区があり、この単位の地域で支えあう組織作りも重要です。女性だけでなく男性も参加した地域と行政がドッキングして情報交換をしながら市民からのアドバイス、行政のサービス提供を進めていきたいとも考えています。

特集 老人ケアのゆくえ

闘いとうろく、女の未来

山本澄子 (同志社大学講師)

最近、私たちオバサンが集まると、必ず出る話題は、老親の看とりと自分の老後の医療と生活不安についてである。低俗な若者の読む雑誌の中味と比べたら、なんと高次元の話題であろうか。人生の締めくくりにまで話が長びくと脳死・安楽死も扱う。こうなると、半端な学問で間に合わぬ。政治・経済・法律・哲学、宗教、医の倫理とじつに多彩な学問を総動員すべき学際領域の問題ともいえる。オバサンを馬鹿にするな！

しかし、オバサンはやがてオバアサンになること、そして、きんさん、ぎんさんのようなタレント性を持ち合わせていないことを、自覚しているから、「超高齢化社会の到来」などと言われると、その責任を一身に背負っているかのごとく、社会の片隅で小さくなって、「早う、お迎えが来んかいな」などと独り言をいっている自分を想像して、不安におびえているのだ。

核家族化、働く女性の増加、人口の大都市集中、企業
の国際化、若者中心の文化、大量生産大量消費に酔いし
れ、身分不相応な服やバックを手に、世界漫遊を楽しむ
若い女性、一・五三の出生率。自然も人心も破壊される。
老人に住みにくい世の中だ。でも、この子らも、五十年
生きてりや確実にババアよ、と心のなかではほくそ笑む。

しかしババアがこの世に別れを告げるまでのプロセス
は長いし、現代のこのような条件の世の中では家族も当
てにならない。じゃあ、地縁でやれというのが、この四
月からの高齢者福祉の権限の地方への移譲だ。市町村そ
れぞれの特性をいかして企画するといわれれば、京都な
どどんなメニューができていいのか、オバサンたちは気
になる。ところが、市民新聞を開けて丹念に見たつもり
だが、新しい企画は見当たらない。大新聞の地方欄に予
算の概要だけが出ていた。

このあいだも、ご近所の八十三歳の方の姿がしばらく見えないと心配して、お隣の八十歳の方が訪ねたら、インフルエンザの高熱で食事もうくにとらずに、十日も寝込んでおられたとのこと。あわてて、お粥を炊いてもっていかれたそう。どちらも独居老人。これが、地縁による老人の自立と自助の在宅福祉というのだろうか。独居老人が病に倒れた時、どこにどう連絡するのか、具体的に説明したパンフレットもなにも配布されていないらしい。もっとも、緊急連絡網の整備もできていないかもしれないが、住居もかなり老朽化していることだから、そろそろケア付きハウスか、特養にでも入ってもらおうが周りの者は安心なのだが、どこも待機者ばかりで、本人が希望しても生きている間に合うかどうか危ぶまれる。それに老人自身、やはり管理される施設はからだの自由がきくかぎり忌避される。

実際、嫌がられるだけの理由大ありだ。起床時間に始まってスケジュールどおりの生活、食べたいときに好物を、というわけにいかない。個室もなく、狭い部屋での同居、馴染んだ品も持ちこめない。大学生の孫たちは、バス・トイレつきのワンルームに深夜でも自由を満喫している時代なのに、あとわずかの人生の残された時間をあかの他人に、縛られて暮らすなんて……某特養ホームでは、調理員が、文句いう入所者の高血圧食に塩振ったとか、「どうせ、もうすぐ死ぬ人やし、何食べさせても

いっしょや」といったとか。そして、老人用の食事ピンハネして、持ち帰るとか、これが経済大国日本の福祉の実態か？ かつて、某大臣が、老人福祉なんて枯れ木に水だ、といったのを思い出す。

要するに、モノ、カネを生み出さない者は産業廃棄物にみえるのだらう。重度心身障害者や手のかかる老人たち。この日本で、いまもっとも差別され、家庭でも社会でも使い捨てられているのは、これらの人々だと思う。そして、おもしろいやさしさに充ちて福祉の世界に飛び込む職員も、次第に初志をねじ曲げられる三Kの労働と低い労働条件。

福祉専攻の大学生の多くが、就職先に一般企業を選んで巣立つ。福祉というものが、民間に押し付けられ従事者の高邁な犠牲的精神を強調することではなく過ぎてきた日本の福祉の歴史と現実。福祉関係者の労働条件から改善しないことには、若者から敬遠されるのも当然。言うこの実態は変わらないと、オバサンは心配している。いつか、消費税を導入するとき、政府は老人福祉にカネが要るからとかいっていた。数兆円、毎年老人福祉予算が増えているかしら。ノーだ。老人たちよ。あのカネを取り返そう！ ガキと違って、投票権があるのだ。グレイ・パンサー組織して、闘いとうろう！ オバサンも共闘するよ。

有料老人ホームを訪ねて



今、円熟の日々を高原ホテルで

市街地に今も古代の池、深泥ヶ池があり、百六十種もの野鳥がこの池に集まってくるのだという。この豊かな自然に囲まれて、社会福祉法人・京都博愛会病院（院長・富田仁）及び、有料老人ホーム・京都ヴィラ（苑長・富田芳子）があり、協力体制をとっている。なお院長と苑長は御夫妻である。

一九八五年七月にオープンした京都ヴィラはリゾートホテルのようなラウンジ、フロントで思わずため息がもれた。

入居者の絵や書などの作品の並ぶクラブルームで苑長さんのお話を伺う。どの作品もとても格調高く入居者の生活レベルや教養の高さがうかがえた。

豪華なシャンデリアのゆったりとした食堂、気品のあるラウンジ、入所者の健康管理の中心保健室・安静室、訪問客のためのゲストルーム……と順々にホーム内を案内していただく。床はすべらないように弾力性のあるコルクタイルが敷きつめてあり、もちろん、段差がないような設計で、至る所、細かく配慮されている。トイレや浴室にはナースコールのボタンも設置されており、ホーム

理想的な「終の棲家」はあるのだろうか。二月下旬、雲の合間から時折太陽がのぞいていたのに、ついに雨になってしまったある日、女たち数人で京都市内の有料老人ホーム三カ所を訪ねてみた。

京都ヴィラ 京都市北区上賀茂ケシ山一番地

内での管理に最新の機器が導入されている。

外出する場合自動的に居室の冷蔵庫以外の電気は、すべて消えることになっているとか。玄関やトイレのドアが二十四時間開閉されない場合、健康管理センターへ自動的にサインが届き、専門スタッフが直ちに対応するシステムになっている。

地下にはトレーニングルーム、トランクルーム、介助浴室、大浴室とサウナ、理・美容室などを完備。

居室は巨額の入居金を払うだけあって、私物をかなり持ち込めるし、仏壇を置くスペースもある。電磁調理器の設備もあり、自炊も可能である。

別棟の「松雲閣」は明治の和風建築で、ここからの眺望はすばらしい。入居者はここで法事やお葬式をとりおこなうこともできるという。

入居者の平均年齢七十六〜七十七歳。入居定員一二〇〜一三〇人。

入居金はタイプによって三〇二五万〜五九五〇万円。

二人入居の場合一〇二五万円の加算。

管理費六八〇〇円〜八八〇〇円。食費は月額五一〇〇円。二十数名入所希望待機中



大家族としての暮らし

一九五八年創設の有料老人ホーム「京都後樂園」（二十六世帯）を前身として、一九八三年改築、改名して現在に至っている。個人経営の珍しいホームである。シルバーホーム衣笠（現在も二十六世帯）を訪れた時「えっ、これが老人ホーム？」と思わず、呟いてしまった。

衣笠山の麓、周辺は緑豊かな静かな住宅街で、民間の少し大きなお家という感じであったが、入ってみると、個人のプライバシーが守られるよう独立したアパート式の個室が並んでいた。斜面を利用して鉄筋コンクリート造り三階建（一部四階建）であるが一見民家風。終身介護体制のもと、何よりも家庭的であることをモットーにしているという。

九名の職員が交代で日・夜勤を組んで二十六名のお世話をしているが、入所者の人数が少ないため、職員の誰かが全員と常に顔を合わせることにになり、ますます、家族的になってきたのだという。だから、最初あった規約も家庭の延長というホームの雰囲気の中では、次第に大目に見られ、ついに深夜の二時、三時の帰宅ということも時にはあるという。もちろん、門限はある。

また、お孫さんが受験のため、一週間、おばあちゃんの所に泊まってゆくということも黙認の形だったらしい。

大家族一家が大邸宅にそれぞれ個室を確保して、棲み分けているという感じであった。

毎月一回お誕生会も催されることになっており、食堂ではカラオケの装置が設置され、懐メロを楽しむお年寄りの姿が目につかぶようであった。

平均年齢八十歳。女性二十一名、男性五名が現在入居している。入居は健康が条件だが、入院が必要になった時は、西陣病院へ。なお、月一回の健康診断、年一回の人間ドックは無料で受けられる。

また痴呆のためなどで介護が必要になった場合は、ホームの介護室で看護婦さん（常駐）及び、ヘルパーさんのお世話を受けられる。静養室や特殊浴槽等も完備している。

一階には坪庭の見える大浴場、二階には植物の緑に囲まれたサニールームがあり、初春の柔らかな太陽が降り注いでいた。庭園には本格的な茶室もあり、静かなひとときを楽しめる。

家族がいても九十九％、このホームからお葬式を出すという。ここでのメンバーが彼らにとって家族なのである。

入居一時金 一四五〇万～一八八〇万円。

毎月の利用料は一四二五〇〇（単身）～二三五〇〇〇円（夫婦）
七～八名入所希望待機中



アパート入居料金でバンガロー生活

雲が空いっぱいに広がり、ポツポツ雨が降り始めた中、洛北鞍馬街道沿いの第一種風致地区山麓にある市原寮へ辿り着いた時、人里離れた、いかにも老人ホームへ足を踏み入れたと思った。

まず、寮長 瀧池 崇さんのお話を伺うと、「他と比べると見劣りがしますが、こんな家でもええという人に入ってもらっています。他にデラックスな老人ホームができてから、はやりませんあ……。問い合わせが減ってきました。それで、ええと思うとります。安く利用しやすいように福祉的運営を心がけています……」とのこと。入所者の平均年齢八十二歳。十八名が女性で、なんと男性は一名。「さぞ、もてるだろうね」と私たちは噂し合った。

お話のあと、案内されたのは自然環境をフルに活用して、雑木林（向山斜面）にバンガロー風の一戸建居室二棟、二戸建居室六棟、長屋風アパート六戸建一棟から成る老人村だった。お風呂、台所、食堂、八角形の不思議な建物（談話室）がある別棟のサービス棟が村の中心にあり、テレビを見ながら三人のお年寄りがくつろいでいた。

近年、我が国も急激な核家族化現象にみまわれ、子供

世代から別れての老後、余生のあり方が模索されつつあるが、この市原寮はその動きにいち早く対応しようと試みたものらしい。人里離れてはいるものの、市街中心地へ電車、バスなどすぐ出られる所にあり、南面に市原野を望む自然に恵まれたバンガローでの生活は、一見、風雅な別荘生活をイメージさせる。鞍馬寺、貴船神社もすぐ近い。

サービス棟でにぎやかに入所者たちと入浴したり、食事のあとおしゃべりを楽しんだら、自宅へひきあげることもできる。それぞれの家への小径には、季節の花が咲いており、庭での園芸を楽しんでいる人もいるのだろう。梅は今にもほころびそうであった。野鳥も近くに飛んできており、周りの自然に溶け込んだ風物は、閑静な生活、瞑想的日々を準備してくれるのではないか。人間よりも自然と孤独を好む人にピッタリだ。

特別養護・養護老人ホームが母体施設になっており、要介助の状態となれば、同一施設内への移行が抵抗感少なく、可能なのも安心となっている。有料ホーム内での介護サービスは緊急時以外はない。

入居料	二五万円（単身）	二五万～四〇万円（夫婦）
保証金	一二万円（単身）	二二万～二四万円（夫婦）
利用料	八万円（単身）	二五〇〇～一四万円（夫婦）

（塚崎美和子）

精神医療と痴呆老人のゆくえ

特集 老人ケアのゆくえ

最近の医学データによれば、老人性痴呆疾患の出現率は、六十五歳以上の人口の五・六％という。

日本の六十五歳以上の人口動向から将来を予測すれば、痴呆老人数は一九九五年九二・四万、二〇〇〇年一二・一万人、二〇一〇年一五九・三万人となるという。

痴呆老人は特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、老人保健施設、老人病院、一般病院、精神病院等に分散、入院、収容されているが、今後は彼らはどこで処遇されていくことになるのだろうか。

老人ホームはいつも満杯で、痴呆老人を抱えた親族は、医療、保健、福祉の現場を右往左往。どこを訪ねてもなかなか入所、入院先が見つからないのが現状である。

「高齢者保健福祉推進十カ年戦略」（ゴールド・プラン 一九八九年十二月発表）によれば一九九九年（平成十一年度）までに特別養護老人ホームを二十四万床（五十％が痴呆老人とすれば痴呆老人のベット数は十二万床）、老人保健施設は二十八万床、ケアハウス（十万人）をつくるという。

医療法の規制を免れ、老人保健法に基づく老人保健施設は痴呆老人を一手にひきうける専門施設として注目されているが、受益者負担の原則が貫かれており、低所得

階層者の入所の場合、いろいろな経済的負担の点で問題がでてこよう。

さて、精神病院での対応はどうなのであろうか。

一九九一年六月三十日現在、三十五万人の精神科入院患者のうち約四万人が痴呆性疾患という。なお分裂病患者は約二十一万名である。

厚生省は精神病床数について十万床減らすと言明しているが、実行されれば大病院以外は存続の岐路に立たされるであろう。しかし、本当のところは精神病院をつぶす気はなく、どうも精神病床を減らしなさい。減らしたくないならば、痴呆性疾患専門病棟を作り、生き延びて下さいということらしい。

従って、今後精神病院での全ベット数に対して、痴呆性疾患専門病棟（短期治療型と長期治療型がある）のベット数の割合がかなり高まってゆくことが見込まれ、痴呆老人の収容先としてこれまで以上クローズアップされることになるだろう。

精神障害者が「閉じ込められて当たり前」と考えられる社会風潮の中にあって、痴呆老人は今度は治る見込みのない「死ぬべき存在」として収容され治療不可能として、匙を投げられないよう祈りたい。（塚崎美和子）

「ライフ・イン京都」の概要

- ★〒615 京都市西京区山田平尾町46
TEL 075-381-1870
- ★阪急桂駅まで専用バスで15分
- ★総戸数 228戸
- ★居室 1LDKから3LDKまで77タイプ。全戸
ルーフトラス付き。ベット可
- ★入居金 28656000円から66262000円まで。
2人入居は1236万円加算。
- ★管理費 1人入居は月49200円、2人で79000円。
- ★レストラン食事 朝食345円、昼食679円、
夕食1034円。
- ★医療・介護 京都桂病院が協力連係体制。
- ★有料サービス 居室掃除、洗濯、布団干しや
取り入れ、介護の世話、食事の運搬、植木の水やりなど。30分に付き800円。
- ★現在入居者 285名、女性と男性比7対3、単身
70%。平均年齢73歳。セカンドハウスの人も
30名ほど。
- ★現在待機予約者 95名。
- ★一日宿泊体験 一泊3000円。

ライフ・イン京都 一日体験記

わあ、高級ホテルだ！ まず外観（表紙の裏、さし絵を参照）で目を見張る。

正面玄関を入ってまた感嘆した。ロビーのむこうの中庭は五階まで吹き抜け、滝のような枯れ山水といおうか、巨石が天まで届く感じで積まれている。前のソファでは五、六人がゆったりくつろいで、ロマンの洋画を見ているようだ。

一日体験宿泊を願った私の部屋は四階、一LDKの四二二号室。入居すれば三六三万七千円の居室である。但し一泊三千円、ホテルに泊まる気分です。風景は一見ホテル。だがここは、さすらいの旅行者で

なく日常生活を送る高齢者のわが住居なのだ。ホテルにはない流し台、LDKの奥には和室があり、ナースコールは和室、バス、トイレに付き、ドアの開閉が十二時間行われないと事務室に通報が入るシステム、床暖房も完備している。

いやこの部屋へ来るまでも、ホテルのようでホテルにはない、細かい配慮に気付いた。全ての廊下や階段に手摺りが設けられ、エレベーターの中には二脚の椅子が置かれ、また階ごとに壁面はピンクとかグリーン、ひと目で確かめられるように色分けされていた。

私も団地住まい、キー一つの生活に抵抗はないが、一日体験して何がわかるだろう。くれぐれも珍入した解説者でなく、たった一日であれここへ転居した気分です。したいと思う。とはいえ、東も西もわからない。まず荷物を置いて、「ライフ・イン京都」という屋内の町を歩く。さしづめ官庁街が繁華街か、共用施設部分は三分の一を占め、建物中央の五階までに集まっていた。

アスレチックルーム、入居者の寄贈した書物で埋まる図書室、カルチャー教室、アトリエ、娯楽室、八畳三間の和室に茶室、ミュージックスタジオ、会議室に応接室、理・美容室に学校の講堂といった広さの多目的ホール。これらを使って活動するサークルや同好会は三十を数えるとき。積極的な生き方を志す入居者が、豊かな経験や知識や技術を社会に提供する活動として「円熟人材セ

ンター」も進められている。屋外にはテニスコートやゲートボール場があり、一坪菜園も申し込める。ん、足らぬはあと赤提灯かカラオケパブか。ふと乱れた心を立て直し、のども乾いてそろそろ夕食、レストランへ。

献立はAかB、見本の景色を見て決める。配膳はセルフ、後片付けはお任せという原則だ。好みで柔らかいご飯、普通のご飯、胚芽米を選ぶが、ステンレスのふたをあけてびっくり、中はおひつになっていた。快適で安全でスムーズに、何事も考え抜かれたシステムで機能しているのだろう。

おいしい晩ご飯、ここでのビールは一人一本の約束。

自室で料理を作るひとも多くて、広いレストランはほどの入り、静かな団欒。しかし「毎日ここで食べますよ。楽だもの」と、髪を薄紫に染めたおしゃれな老婦人は言った。入居は女にとって家事からの解放ともいえる。部屋に戻ればテレビの自主放送が始まっていた。三チャネルで週二回、情報伝達を中心にライフイン・ビデオニュースが流れるのだ。ひな祭りの日にスタジオで催されたポピュラー音楽の生演奏を画面で楽しむ。

夜風が恋しくてテラスに出れば、京都の北から南まで夜景が一望。なじみの町、思い出の地を目で追う。

時、八時半。隣室の大浴場へ急ぐ。「内風呂は掃除が大変で」というお風呂好きが五、六人、先客だ。裸の友と背中を流しあう。やはり夜景が散らついてまるで熱海

温泉。だが温泉より洗面器や脱衣籠がキチンと整頓され、選んでここに住む人たちの志を思った。

居室は合理的、余計なスペースはいらない。言い換えると狭く、だからこれまでのアカを落とすように無駄な物を整理して入居されたのだろう。

入居金の内容は居室の終生利用、共用部分の利用、医療介護サービスを受けるという三本柱。二十三ベットの介護室が一階にあり、定期検診や診察日を含めて医療を支える中心は隣接の京都桂病院である。しかし月日が過ればこの介護室では間に合わないかもしれない。今別に、痴呆ケア棟を建てる予定が進む。

入居時の条件は身の回りのことができる健康な人。入居後寝たきりになれば出されるという噂話もきくが、実際はそうではなく万全な医療介護の備えがある。私が訪れたどのシニアハウスも四角四面の規約でなく、そこは共に生きる人と働く人として、床に伏せた人を臨機応変に細かくケアされていた。

大金で契約し、ここに生活を賭けた居住者はその先駆者、職員以上に自前の研究をなす人も多い。通勤の入居者も若干おられる便利な都市型。学生にマンションが流行の当節、時代と共に前衛のシニアハウスも生まれたのだ。私は紅梅に咲きこぼれる花樹園を眺めて桂駅までブラブラ歩きながら、二十年後の「ライフ・イン京都」をぼんやり考えていた。

(高橋幸子)

老いと性

加藤 清

(京都博愛会病院顧問)

性の原型は、男女が互いにその身（みー心身）に触れ合って合一する「こと」である。性交のみのせまい事象に限らない。性は身の「外」の「もの」とされるところだけ、身に裂け目を生み、魂から分離しやすい。性は聖であるといっても、あまりにもこの世的であり、社会的にも宗教的にも、いろいろなタブー、道徳、戒律などに取巻かれている。また古代より性は、豊饒多産のしるしとされたが、なお全人的に受け入れられてない。

性は第一の抑圧快楽の原理の下で蠢めく。この原理は、人々が快楽を機縁として抑圧を撥除け、自律する性的人間として、辛うじて自己を実現するにとどまっていることを示す。しかし、性は第二の開放歓喜の原理にも従っていることを忘れてはなるまい。この原理は、本来魂と性とは一体不二であること、換言すれば、性そのもののうちに、魂の導きがあり、性は靈性として純化されていることを教える。インド密教に於ける性ヨーガ、即ちタ

ントリズムがその模範例である。このようにして、性は快楽から離れ、歓喜に満たされる。現代世界に於いては、残念ながらこの原理が十分に生かされてない。それは、人類の成員が自らのナルシズムを越えて、人間としての性を、性にふさわしいその根本から十分に理解してないからである。

老・若・男・女が、魂に導かれると、それぞれが、その本来の姿を現わす場が、自然に開かれる。この場では、老いと性は、とくに死を通じて連動しているのが分かる。寿を具えた者は、身近に多くの死を持つにつれ、性としてのわが身と魂との共鳴を一層よく感じる。老いの性には、若者の性のように、青春から朱夏にかけての身を焦がし、魂を振り切って燃える熾烈な趣きはない。それは、白秋から玄冬にかけて、静かに燃えている、いたわり合う男女のやさしさに満ちた性となっている。これこそ正に、魂に導かれた靈性としての老いの性の特性といえよ

う。

しかし、上述した如く、性は烈しい快楽に酔い痴れ、わが身を忘れる世界と共に、純化し尽くされ、歓喜に浸る世界との二つの世界が同時に開けていること、またこの両者の間には、性の倒錯を通じても知られている、深くて広い性の第三の領域のあることも看過できない。ただ、老いの性が、仄かに輝き静かに沈んでゆくのは、老いても老いることのない老いの根源から導かれているからである。

しかし、一方性がその本質から離れ、老いが老いのうちで朽ち、性が老いに埋もれていく、この世の姿もよく観る必要がある。

身の老化は、現象面では、齒、目、耳、魔羅等に明らかに現われる。魔羅とは、一般に男性の陰茎を意味する。しかし、リング（男根）崇拜を中心とすると、広く男女の性のいのちを意味することにもなる。魔羅はその魔力が衰えると、なか身が心とからだに分離し、更に魂からも離れていく。そして、性は体の性としてのみ発現してくる。

ある老人は、自分のオナニーへの協力を、介護している女性に依頼する。また閉経後、色香を失ったある女性は、自分が女性でなくなっただけだと思ひ込み、「うつ」に傾いていく。かの老人を戸惑いつつ介護する彼女も、自らの性の神秘に触れ、老いの性の核心を識れば、その介護

も一層容易になる。またこの老いつつある女性も、俗にいう女性という制服を脱いで、真の性という私服を纏うなら、「うつ」から軽やかに脱し得よう。

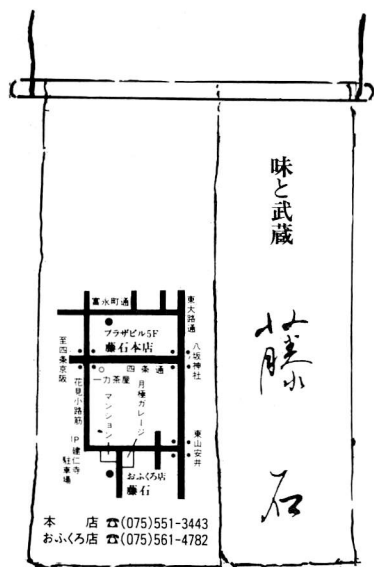
結局真の性のうちの老いの性も、死に向かって収斂しつつ、エロスを越えてゆく命の愛である。

このようにして、大いなるやさしさのうちに、老若男女は、共に互いに深く癒し合いつつ、生きているのが身に染みるであろう。

具寿者の性は残りの人生の最初の日、また最後の日に静かに燃えている。

愛宕山人入る日の如し

あかあかと燃え尽さんのこれる命（西田幾太郎）



「居宅医療部」 二十年の 歩み

医療法人西陣健康会

堀川病院

上京区堀川通今出川上ル北舟橋町八六五

堀川病院は、急速な高齢化が進み対応策に苦慮している中、どこよりも先駆けて真摯な老人ケアに取り組んでいる病院である。

往診をする居宅医療部、充実したリハビリテーション、独自のデイケアサービス。最近では行政から訪問看護ステーション、在宅支援センターの設置の認可を得ている。これら心暖まる優れた介護システムは、一朝にして成ったものではなく紆余曲折、試行錯誤の中から生まれてきたものばかりだ。事務次長の西垣氏に今日までの歩みを伺った。

堀川病院を一步入ると、そこには大病院の無気質感とは異なる温かい風が漂っている。まず案内板の字が大きい。誰もが親しげに受付に挨拶をして行く。持ち合いは隣同士話に花が咲いている。買ってきた花を生けている老婦人。地域の人が作った地域のための病院の基本姿勢がここにはある。

戦後、日本各地では結核病や伝染病が蔓延した。ここ西陣地区でも例にもれずこのような病気にかかる人が多かった。病院に行けない人も多く、地元では「自分たちの健康と生活を守ろう」と一食分のおかず代などを節約しながら三万円を出資、一九五〇年、白峰診療所が誕生した。最初の医師として早川一光氏が招かれた。以来、早川氏は、四十年余りを地域の人達とともに歩んでいる。一九五八年、入院しても継続して見て欲しいと地域の

人がお金を持ち寄り、現在の堀川病院を設立する。その際の要望は、「三でも医療」というんですが、いつでも見て欲しい。差別なく誰でも見て欲しい。いつでも、どこでも、誰にでもですね」と西垣さん。保健婦さんを雇っての二十四時間訪問診療も始まった。

西陣地区は織物の街。お年寄りにもできる仕事が多い。若い人が郊外に住みお年寄りが残るというドーナツ化現象も起きてきた。六五年頃からはお年寄りの長期入院が徐々に増加する。盲腸のような急病でも「入院できない」情況が続き、七〇年頃には地域の人達の不満も出始めた。また、お年寄りの長期入院で病院側の赤字が続いていく。院内では「高齢化をどうすればよいか」様々な議論と検討、勉強会が続く。「家で死にたい」と希望するお年寄りも多く、「家に帰っていたらだ。ただし必ず住って診

る”ことを基本に七三年、訪問看護、指導をする『居宅療養部』が設置された。これが訪問看護の始まりである。

当時は医療報酬としての訪問看護料もなく五百円（のちに一千円）の謝礼のみである。加えてターミナルケアが重要視される現在と異なり、当時は看護婦さんも外科、内科希望が多く、あまり歓迎はされなかったようだ。

やがて、お年寄りの生きざま、死にざまを暖かく見つめ、高度成長の中でのお年寄りの大切さをエッセイにまとめた早川氏の『わらじ医者京日記』が出版もされ、また、長野県佐久病院が中心となる「地域医療研究会」が発足し堀川病院も参加した。この頃から議員を含む多数の人が堀川病院の見学に訪れるようになった。認められなかった医療報酬による訪問看護料も百点（千円）が認可される。

八四年、理学療法的重要性からリハビリテーション科を設置した。「年配の女性に多い大腿骨頸部骨折なども、病院で寝たきりでは歩けなくなってしまう。リハビリをしながら家で動かしているうちに治るんですよ」

家に籠もりがちでは身体もなまってくる。なによりも孤独感の心境に陥り易いお年寄りのためにデイケアサービスも始まった。月曜から金曜日、八時頃から三時頃まで、リハビリテーションを始めとするさまざまなプログラムを組んでいる。週二、三日、お年寄りがリハビリに通えば、その間家族は安心もでき、いない間の仕事もで

きるようになった。

在宅介護の尊さを説く早川氏は著書『ほうけてたまるか』の中で、「『畳の上で』ということとは、家族とともにいうことである。町の人たちとともに、ということである。くらしの真ただ中で、ということでもある。病院の暮らしは、異常の生活である。衣食住を完全に、今までの暮らしから切り離し、二十四時間、管理される生活である。これは長く続けてはいけない。非常な時——だけ止むを得ず、とる手段である。——病院のものが献身的に看病しても——身うちの心くばりにはかなわない……。私は、もう一度、在宅の意味をかみしめてみる。そして往診の意義を、しっかりと確立したいと思っている」。

「老人問題」は女性の問題、負担の多くは女性にかかってくるとしながらも、早川氏は見届けてあげる「死を看とる医学」確立に向けてその想いは熱い。

現在堀川病院の定期往診を受ける人たちは二百数十人。家が病室で、家と病院との道路は病院の廊下。今日も「堀川病院往診車」は、西陣の街中の廊下を走り抜けていく。

（二居時江）

集 特

「バブル崩壊を
京都に見る（仮）」

次号予告

六月五日発売

“生きがい”は “逝きがい”



特別養護老人ホーム 社会福祉法人

バプテストめぐみ会
バプテストホーム

京都市左京区北白川山の元町108

京都北白川瓜生山麓の日本バプテスト病院より少し奥まったところに、病院と並んで社会福祉法人バプテストめぐみ会バプテストホームがある。

ここでは福祉事務所を通して入所、介護を必要とするお年寄り八十名をお世話しつつ、デイサービスセンター、在宅介護支援センターを併設し、在宅の人の支援や相談にものっている。

片道三十分以内の人の訪問入浴（一日二人、月々金）や通所者の入浴、給食サービス（昼食最大三十食 月々金）、ショートステイ（一週間の短期入所）などが併設のサービス事業である。

入所者の平均年齢は八十四歳（男性十二名、女性六十

八名）。半分以上の方に痴呆がみられ、排泄、入浴、着脱衣、歩行などに全面介助が必要となっている。

「喜ぶ者とともに喜び、泣く者とともに泣きなさい」（聖書ローマ人への手紙）を理念として、人としてどう生きるかを職員皆で常に考えているのだという。「生きがい」は老いても居る場所が本当にあるのだという「居きがい」に通じ、それはまたどういう道を生きてゆくのかという「行きがい」となり、平安、喜びの中での「逝きがい」になるよう牧師である施設長・平沢氏は、月、木の礼拝では賛美歌のあと、死について話されるのだという。キリスト教を土台にして、この世からあの世への旅立ちに心から寄り添う人のいる安らかさが、私の心に深く残った。

このホームを訪れて感じた最初の印象は、清澄にして明るいということだったが、祈りの心使いがあらこちに感じられ、清々しいものであった。老いをみとりながら働く人々の表情が決して暗いものではなく、ふんわりと暖かい。命のぬくもりが至るところに感じられる。

なおバプテスト病院に対する信頼の根が、地域の人の自発的な協力、応援となって実を結び、ボランティア活動グループ「みつわ会」のメンバーが一ヵ月、延べ四十〜五十人も入っており、洗濯物のお手伝いや入所者のお話し相手になっているという。

国の基準を大幅に上回る職員とボランティアの協力で、ホーム内はゆったりとした雰囲気満ちている。

（塚崎美和子）

特集 老人ケアのゆくえ

アテンドサービスト 育成の試み

平安看護婦家政婦紹介所

労働大臣許可の紹介所は現在、府下には二十三カ所ありこの平安紹介所もその一つである。許可を取るには看護婦がいる事。

紹介所の事務経験が十年以上でないと認められない。「明治時代、学校の先生をしていた祖母が始めまして義母、私と三代続いています」と所長の梅香家さん。主な仕事は病院付添い、在宅介護、家事手伝い。損害補償なども充実し始め安心して働けるようになった。最近、核家族、女性の社会進出などでお年寄りの介護が増えているが、病院の付添いや在宅介護は重症の人が多く、なかでも痴呆症にかかった人の介護は昼夜の徘徊など目を離す暇もないほど。特に夜勤の介護は緊張を強いられる仕事だ。このような介護の現状を踏まえ一九九〇年、

労働大臣認定技能審査によるアテンドサービストの育成試験が始まった。これは「全国国民営職業所紹介事務協会」が主催するもので、病院や在宅の介護方法全般に渡っている。条件としては労働省認可の紹介所に六ヵ月以上勤めている人でまず①講習に参加する。これが終了すると一年に一回の②学科試験。合格すれば③実技講習。これに合格をすればアテンドサービストの資格を得る。

「看護婦経験者でも難しいそうで、今は過渡期ですがいずれこの資格を持たないと介護は出来なくなるのでは。依頼される方も案外この資格を御存知ない方が多いんですよ」。

北欧では、ホームヘルパー、看護婦、保母さんは非常にやりがいのある仕事とされ、地位や労働条件も高い。が日本ではなかなか望めないのが現状。しかしこのアテンドサービストや社会福祉士などの資格があることで地位の向上や介護サービスが充実してくればお年寄りを抱える人、老後を不安に思う人、公的なホームヘルパーを望めない人にとっては朗報だ。しかし紹介所に依頼すると、公的なホームヘルパーに比べ割高になるのがネック。「行政とタイアップできる方向が望ましいのですが」と梅香家さん。

すでに家政婦協会とタイアップしている市町村もある。ホームヘルパー不足の現在何よりも先駆けて実現して欲しい。

(一居時江)

紹介所依頼料金(京都市一律)

住み込み 10740円以上 8時間労働 基本給7320円

6時間パート 1時間1140円

交通費と10.1%の紹介手数料、消費税は料金に加算

協会に加入、実働1時間1000円の報酬を得る(協会は今年、社会福祉法人となる予定)。利用者は、おおむね65歳以上の寝たきり、または家事や身の回りのことができないひとり暮らしの人や家族が介護をできない場合で、掃除、買い物、洗濯、炊事、着替え、排泄、入浴、食事などのサービスを受ける。

利用時間・1日おおむね4時間以内。利用料・家庭の収入に応じて1時間0～650円まで。

●老人訪問看護ステーション

1992年、老人保険法改正で設置認可。開業医の紹介を受けて看護婦や理学療法士などが寝たきりのお年寄りの家庭を訪問、床ずれの治療や下の世話、リハビリなどを行う。煩雑な福祉制度の説明なども受けられる。2時間以内およそ250円。追加料金は1時間およそ1500円。

●保健婦の訪問指導

寝たきりのお年寄りのお世話や介護する家族のために体の拭き方、入浴の仕方、便器やオムツのあて方、床ずれの手当、寝具の交換、食事の工夫などを指導する。8回程度で無料。

●訪問歯科治療

65歳以上の寝たきりのお年寄り対象。費用は保険治療の自己負担分(老人医療証使用可)。

●家事介護援助者の派遣

一時的な理由により日常生活に支障があるおおむね65歳以上のお年寄りのいる家庭対象。おおむね1ヵ月以内。日、祝日などに必要な家庭。利用料・ホームヘルパーと同じ。

●介護者激励金支給

65歳以上の寝たきり、または痴呆性のお年寄りを6ヵ月以上介護している人対象。支給額は、一人年額六万円。

●日常生活用具・介護機器の給付、貸与

すでに長期に渡り寝たきりまたは病弱な一人暮らしの人でおおむね65歳以上。給付は介護用ベッド、エアーマット、腰掛便器、車椅子、歩行者、火災警報器、徘徊感知器、電磁調理器など(所得課税所帯は、所得税の額に応じて費用や工事費の負担がある)。

●緊急通報システム

おおむね65歳以上のひとり暮らしやお年寄りだけの家庭で利用できる。身体の具合が急に悪くなったり突発的な事故の場合、ペンダントボタンで消防指令センターに通報される。

●住宅改造資金

京都府社会福祉協議会に貸付制度がある。貸付は一般120万円から。年利率3%。詳しくは各福祉事務所へ。市の住宅局では、今年、支援対策を検討、現在最終段階に入っている。

●中央老人福祉センター

専門家による健康、痴呆症、看護、生活などの相談や福祉サービスの相談を受け付けている。

☎604 中京区四条御前西北角 ☎802-1221

●在宅介護支援センター

特養や老人保健施設、民間医療機関などを中心に煩雑な手続きの代行をするなど、住民と行政を結ぶ役割を担い、保健・福祉・医療の連携をとる。現在13箇所ありゴールドプランでは中学校区に1箇所設置が最終目標。

●シルバーサービス振興会

福祉機器、入浴サービス、有料老人ホーム、ヘルプサービスなどシルバーサービス業や販売、レンタル業が活発化している。民間業社約190社が参画して行政の指導のもと振興会を発足、お年寄りの信頼、商品の確実性などを基本とする倫理綱領を作成した。質の高さを守るため有効期間2年の“シルバーマーク”制度を行っている。

京都市「福祉サービス」一覧表

●特別養護老人ホーム

65歳以上で寝たきりなど介護が必要なお年寄りが対象。家庭で世話をうけることが不可能な場合に入所できる。4人部屋が現状。費用はホーム入所者とその家族の収入や納税額に応じて支払う。年収が217万円以下の場合は無料。市内に22箇所設置。通称は“特養”。

●養護老人ホーム

65歳以上で心身機能が弱り日常生活に支障のある人や、健康でありながら経済上の事情で居宅において生活ができない人を対象とする。市内に8箇所設置。

●軽費老人ホーム（ケアハウス）

60歳以上で年収が300万円ぐらまで。自分のことは自分でできる人が対象。給食サービス付きのA型と自炊が原則のB型に分かれる。1994年春オープン of 久我の杜ケアハウスは、給食サービス付きで車椅子でも生活のできる人が対象。全室個室で利用料は10万円前後から。特養、軽費老人ホームの入所は行政の判断によるが、こちらは社会福祉法人・京都サービス協会が運営。施設と相對の契約を結ぶ。

●有料老人ホーム

現在、全国に約250あり、内京都市に6箇所。このうち全国有料老人ホーム協会には131箇所が加盟。厚生省は入居定員の5%は介護施設を作るよう指導しているが、これでは追いつかないのが現状。最後までマンパワーの体制で世話をしてもらえるのかどうか。目先のインテリアなどに囚われず体験入居などをしてじっくりと見極めることが大切である。

●シルバーコーポラティブ住宅

「入居者参加型高齢者共同住宅」。入居希望者は事前に建物の中身について話し合い（段差をなくしたり手摺りをつけるなど）、自分たちの生活設計に合う高齢者向け住宅を共同で作ろうという試み。全国に先駆けて京都市と市住宅供給公社が進めていたがバブル崩壊の影響で中断している。

●老人病院

病状の急性期または慢性疾患があり治療を必要とする人が対象。入院患者の70%以上が65歳以上の「特例許可老人病院（棟）」をいう。医療よりも介護強化型の病院が新設され始めた。

●老人保健施設

病状が安定期にあり、入院治療する必要はないが介護を必要とするお年寄りを対象に家庭への復帰を目指す新しいタイプの中間施設。医療費は保険料と国、地方団体の負担。日常生活（おおむね5万円ほど）は利用者負担。京都市には現在8箇所設置されている。

●デイ・サービス

在宅にあっておおむね65歳以上の寝たきり、または身体や精神上に障害があり日常生活に困難な人のために通所して入浴、食事、リハビリテーション、健康チェックなどを行う。このような施設をデイ・サービスセンターという。利用料は1日1000円（特殊浴槽利用はプラス500円）。訪問入浴サービスは3000円。

●ショートステイ（短期入所）

介護をしている家族が急用、病気、休養の際一時的に老人福祉施設に預けられる制度。おおむね65歳以上を対象とする。期間はおおむね7日間以内。料金は特養・1日2020円、養護老人ホーム・1日1570円（リフト付き専用車送迎希望者は送迎各1回につき500円）。

●ホームヘルパー

“家庭奉仕員”の意。育児などに手が離れた人を中心に、360時間の研修（国の示す最も高いレベルの時間）で介護などの基本と技術などを学ぶ。それを経て京都ホームヘルパーサービス

● 特別養護老人ホームの待機中の人数、待機期間 ●

全部1688市町村の平均は8.3人、50万人以上の都市では129.9人。大都市ほど競争は激しい。京都府はさらに激しく平成4年10月現在1100人が待機中。待機期間は、全国平均は10.7ヶ月、50万人以上の都市では25.6ヶ月の長期となっている。京都市の場合は平均約1年と言われている。

● デイケア施設 ●

全国1688市町村の65歳以上高齢者1万人当たりの平均は5.1施設。50万人以上の都市の場合は0.8施設。京都市は31施設、65歳以上高齢者1万人当たり1.57施設。

● 老人保健施設 ●

老人保健施設は、現在全国で688施設、54999床が設立されている。ゴールドプランでは緊急の課題とされ、平成11年までに28万床が目標とされている。京都市は現在8施設。

● 保健婦さんの数 ●

在宅介護に重要な存在は保健婦さん。全国1688市町村の平均では65歳以上高齢者1万人当たりの平均は18.7人。50万人以上の都市では9.8人。京都市の場合は170人の保健婦がいるが、65歳以上高齢者1万人当たりは8.64人。

● ショートステイ施設ベッド数 ●

全国1688市町村の平均は、65歳以上高齢者1万人当たり14施設（ベッド数83.5床）。人口50万人以上21都市の平均は1.2施設（2.6床）。京都府は24施設（111床）があるが、65歳以上高齢者1万人当たりは1.2施設（5.6床）。現在のところ全国なみと言うべきか。

● 老人訪問看護制度の看護婦数 ●

全国1688市町村の平均では、訪問看護・指導を行っている看護婦さんの数は65歳以上高齢者1万人当たり12.1人。人口50万人以上の都市では5.8人。京都市では「老人看護ステーション」と呼ばれ病院など5法人が実施している。これを担当している看護数は明確ではない。

● 特別養護老人ホーム、ベッド数 ●

全国1688市町村の65歳以上高齢者1万人当たりの平均は3.2施設（ベッド数1293.4床）。うち痴呆性老人を受け入れる施設は2.6施設。50万人以上の都市の場合は1.0施設（89.1床）、うち痴呆性老人を受け入れる施設は0.8施設。京都市の場合は全部で19施設、うち痴呆性老人を受け入れているのは12施設（55床）。65歳以上老人1万人当たりの数は、0.96施設（2.79床）と0.61施設。京都市の特養については相当遅れている。

数字が語る京都 ③

京都市の老人福祉対策を数字で見る。

資料 『痴呆性老人に関する全国自治体の保険・福祉サービス実態調査第1回』

1993年1月 (財)ほけ予防協会、毎日新聞

※全国3246市町村を対象に実態調査。うち1688市町村が回答。

『とうけいでみるきょうと』 平成4年度 京都市

『高齢者福祉施策のあらまし』平成4年度 京都市

● 65歳以上人口割合 ●

平成3年の全国調査では、全国の65歳以上の人口割合は12.6%。西暦2020年には25%と推定されている。人口規模の大きいほどの割合は少なくなり、人口50万人以上の21市の平均は10.5%であるが、1万人未満の町村では20.7%である。

京都は平成2年の国勢調査では12.7%、平成4年10月の推計では13.5%、約196,600人で、大都市では高い水準であり、その伸び率も高い。

● 痴呆性老人の比率 ●

全国1688市町村の平均は0.72%、50万人以上の21都市の平均は2.51%、京都は7400人で3.76%で高率。いずれにしても痴呆性老人の比率は大都市ほど高い。

● 在宅介護支援センター ●

全国1688市町村の平均は65歳以上高齢者1万人当たり1.9施設。50万人以上の都市では0.3施設。これもゴールドプランの目玉で平成11年には全国で1万ヶ所を目指す、現在のところ全国で400ヶ所にもならない。

京都市には現在13ヶ所のセンターがあるが、65歳以上高齢者1万人当たりは0.66施設に過ぎない。

● ホームヘルパーの数 ●

ホームヘルパーは在宅福祉サービスの一環として家事サービスを伴う介護サービスである。寝たきりだけでなく痴呆性老人の場合も派遣される。全国1688市町村のホームヘルパー一人当たりの65歳以上老人の数は平均403.2人、50万人以上の21都市の平均は283.5人。国のゴールドプランでは約210人、因に東京都は2001年に68人を目指す。京都は1100人のホームヘルパーがいるが、一人当たりの65歳以上高齢者は178.7人、ゴールドプランの目標には達している。

● 老人介護福祉手当制度 ●

痴呆や寝たきり老人の介護に苦勞する家族に対して手当をだす自治体が多い。全国1688市町村のうち、51%の市町村がこの制度を持っている。しかし、手当の額はばらばらで、50万人以上の都市の平均では月平均7,113円、全体平均では4,655円である。寝たきりの場合に限定するところと痴呆性だけに限定するところもある。京都市の場合は、寝たきりの場合も痴呆性の場合も一律年6万円。

インフォメーションコーナー

- アイ 小売・卸売 〒649-24与謝郡加悦町算所440
 本店 0772-43-0144 網野店 0772-72-5100
 大宮バイパス店 0772-68-0511 岩滝店 0772-46-5560
- 石坪 小売 0773-22-4181 〒620 福知山市笹尾新町2-88
- “介護の中川” 中川薬品
 本社 〒620 福知山市末広町1-1 0773-22-2117
 小売 〒620 福知山市堀草木 国道九号線沿 0773-24-0863

- きづな 075-451-8971
 実施場所 〒602 上京区今出川通千本東入ル 京都市民福祉センター
 利用回数 月3回 第2、第3、第4水曜・昼食
 利用者負担金 400円
- 希望の家 075-691-5615
 実施場所 〒601 南区東九条東岩本町 希望の家
 利用回数 週5回(月～金) 昼食
 利用者負担金 100円 (1人1週間に1～3回 原則、病弱な方)
- 京都教会
 実施場所 〒604 中京区富小路通二条下ル 京都教会
 利用回数 月2回 第1、第3、水曜 昼食
 利用者負担金 300円
- 健康園及び嵐山寮 075-881-0401
 実施場所 〒616 右京区嵯峨大覚寺門前町12
 利用回数 週1回 水曜 昼食
 利用者負担金 300円
- チイロバ弁当 075-622-0409
 実施場所 〒607 伏見区桃山泰長老175-1 シャルム世光7階 世光教会
 利用回数 月2回 第2、第4 金曜 夕食
 利用者負担金 300円
- むつみ 075-491-9121
 A実施場所 〒603 北区千本通北大路下ル ライトハウス
 利用回数 月2回 第1、第3金曜 昼食
 利用者負担金 300円
 B実施場所 〒603 北区大宮御薗橋通下ル 西賀茂生協
 利用回数 月2回 第2、第4 金曜 昼食
 利用者負担金 300円
 C実施場所 〒603 北区北大路通烏丸西入ル 大阪ガス北大路店
 利用回数 月2回 第2、第4 火曜 夕食
 利用者負担金 300円
 D実施場所 〒606 左京区下鴨 下鴨婦人センター
 利用回数 月2回 第1、第3 火曜 夕食
 利用者負担金 300円

独居老人のための配食サービス(ボランティア)

◎ 詳しくはお電話でお問い合わせください

参考資料『京都お年寄り向けサービスの手引き』高齢社会をよくなる
 女性の会・京都発行

在宅介護援助

- 京都ホームヘルプサービス 京都市委託 075-802-1225
〒604 中京区壬仙念町30 京都市中央老人福祉センター内
対象 65歳以上及び重度障害者 主内容 家事・介護
利用者負担金 一時間当たり 無料～860円
- 京都生協くらしの助け合いの会 京都生活協同組合 075-711-1111
〒606 左京区下鴨高木町 下鴨生協2F
対象 左京地域 ただし助け合いの会・会員制
主内容 家事全般(無理のない範囲)
利用者負担金 2時間700円と交通費と年会費1000円
- 京都こんにちは会 075-822-9591
〒602 上京区堀川丸太町下ル 京都社会福祉会館内ボランティア・ルーム 気付
対象 65歳以上の老人 主内容 家事・介護・リクレーションのお手伝い
利用者負担金 無料、ただし交通費実費
- シルバーサービス株式会社 075-341-2288 〒600 下京区室町通松原下ル元両替町243
対象 京都市及び近郊の会員制 主内容 看護・家事・介護
利用者負担金 利用料は問い合わせを要す
- 堀川福祉奉仕団 075-441-8181 〒602 上京区堀川通今出川上ル 堀川病院健康会内
対象 在宅老人 主内容 生活援助 利用者負担金 無料
- 京都福祉生活協同組合設立発起人会 075-371-5552
〒600 下京区松原通高倉東入 三洋ビル504号
対象 京都市内及びその周辺 会員制
主内容 家事援助・介護
利用者負担金 入会金を要す。詳細は問い合わせ

在宅介護用品

- シルバークロス 小売レンタル 075-221-1112
〒602 上京区河原町通荒神口上ル レインボービル
- シルバーサービス 小売 075-341-2288 〒600 下京区室町通松原下ル元両替町243
- ソーケンメディカル 小売レンタル 075-313-4182 〒601 南区吉祥院西ノ庄西中町29
- ダイゴヘルシーサポート 小売レンタル 075-393-1901 〒615 西京区御陵溝浦町21-1
- 高島屋・京都店一階ヘルス・スポット 小売 075-223-2666
〒600 下京区四条通河原町西入ル
- Chiyony チヨニー レンタル・小売 075-432-6789 〒602 上京区下長者町通新町東角
- ノサキ 小売・レンタル 075-311-2265 〒604 中京区壬生東高田町43
- 博英社 小売・レンタル 075-331-7912 〒610-11 西京区大原野西境谷町2丁目4-8-102
- (有)樋口衛生材料商店・ショールームひぐち 小売・卸売 075-611-5116
〒612 伏見区竹田桶ノ井町54-10
- 介護用品専門店 株式会社 しまだ 小売・レンタル 075-593-0198
〒607 山科区小山中ノ河町13
- (有)銀ちゃん便利堂 小売 075-464-6015 〒603 北区寺之内通七本松西入ル
- ワタキューセイモア株式会社 リース 0774-82-5101 〒610-03 綴喜郡井手町大字多賀

ご存知ですか。 厚生年金サービス

坂本淳二

厚生年金保険の

- (1) 被保険者または被保険者であった人で、障害厚生年金または障害手当金を受けた人または受けることができる見込みのある人
- (2) (1) 以外の人で厚生年金保険の各種年金を受けてる人

(3) 給付の内容

ア 義手・義足などの支給の時期を決めるための診療

イ 義手・義足・補装具・車いす・補聴器の支給および修理

ウ イの支給および修理に要する旅費の支給

(4) 費用はすべて無料

(5) 受給手続

年金手帳(被保険者証、年金受給者は、年金証書も)を持参し、社会保険の事務所長に申請書を提出、義手・義足などの支給を受けるときは、診査票も提出。

申請書の提出は、被保険者であれば、その勤務する事業所の所在地の社会保険事務所長、年金受給

映画・ビデオ紹介

現代社会の矛盾や不条理を鋭いタッチで追求する記録映画作家・羽田澄子氏の作品が、ビデオでみられます。ビデオテープ販売

『安心して老いるために』三万円

『資料編・北欧の老人ケアシステム』二万円

『安心して老いるために』

フィルム貸出し料

16ミリフィルム 一日十五万四千五百円

申し込み 〒107 東京都港区南青山2-5-3-401

(株)シメックス ☎03-3401-5750

『痴呆性老人の世界』

フィルム貸出し料 16ミリフィルム 一日十一万円

連絡先 岩波映画製作所 ☎03-5688-3551

『阿賀に生きる』

汚染された新潟阿賀野川の領域でひっそりと生きる老夫婦。四年をかけて撮り続けたドキュメントフィルム

連絡先 『阿賀に生きる』上映委員会

☎ 03-3339-0504

フィルム貸出し料 16ミリフィルム 一日十万円

者であれば、その人の住所を管轄する社会保険事務所長。

医学的リハビリテーション

身体機能に障害のある人に、その障害の種類あるいは程度に応じて、理学療法・作業療法によるリハビリ訓練を実施し、障害の軽減や残された能力の開発を行い、社会復帰させる。

対象 業務外の傷病により身体機能に障害を生じている厚生年金保険の被保険者または障害厚生年金の受給者。医学的リハビリテーション（理学療法、

作業療法）を行うため厚生年金病院に入院。

費用 医学的リハビリテーションを受療するための費用は、すべて無料。

受療しようとする人は、年金手帳（厚生年金保険被保険者証でもよい）または厚生年金保険証書を持参して、申請書を厚生年金病院長に提出し、承認を受けなければならない。

相談・問い合わせは

社会保険事務所

上京区 075-431-1171

下京区 075-351-8900

西京区 075-315-1881

京都府福祉部保険課

中京区 075-256-3311

南区 075-643-3541

監理係 075-414-4633

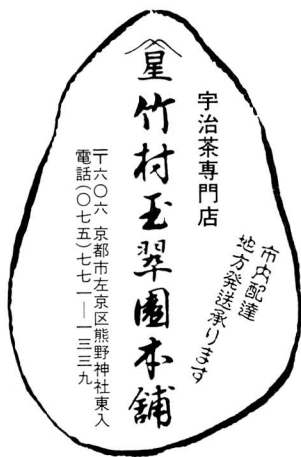
豆知識

●リハビリテーション

機能回復に合わせて残存機能の保持能力を発揮させるの自立を促すために行われる専門的な技術のことをいう。理学療法士（PT）は、電気刺激、マッサージ、温熱など物理的な手段で行う専門技術者。作業療法士（OT）は手先の訓練や日常の動作などを通して携わる専門技術者。

●マンパワー

法令、その他で資格や職種の定められている第一線の専門的な就業者。看護婦、療法師、社会福祉施設職員、ホームヘルパーなど介護、看護サービスに従事する人たち。



民間情報

お年寄りの機能を活かせる生活用品を！

銀ちゃん便利堂

北区寺ノ内通七本松西入ル五軒目

☎ 464-6015

銀ちゃん便利堂は、お年寄りの生活を活かせるための用品を扱う店で、スタッフは浜田さんを中心に友人、知人を含めて現在十人。利益を目的としない人達の集まりだ。店の基本は、誰にもやってくる「古い」の生活や、また「寝たきりから起きて生活ができる」ための補助になるもので、お年寄りの持っている機能をフルに活かせる道具や用品が中心。

用品類は、二十五種類の失禁パンツ、立ち上がりバー、杖、はき易さを考えた靴類、耳が遠くなった人のための助聴器、入浴時の補助用品、着やすい肌着などなど。店独自に開発したもののや吟味して選んだ物ばかり。

浜田さんがこの店を始めた動機は、「十年ほど糖尿病と白内障をわずらっていた母が入院をしまして。ベッドの上がり降りがなかなか出来なかったのです。それで「オムツをあてなさい」と無理矢理オムツを当てがわれたのです。その後急に衰えて一カ月後亡くなったのです」。ある失禁オムツのファッションショーを見た時、「なんとおおらかな、それでいて工夫されたパンツ」だろうと驚いた。母親が亡くなる前に知っていたらと悔やまれた。

銀ちゃん便利堂はお年寄り本人が足を運んできてくれる店だ。また初めて来てくれた人にはじっくりと話を聞き、その人に合ったものを選んでくれる。

浜田さんたちはこの時代、横との繋がりは大切と、月一回、保健婦、PT・OTの療法士、施設の職員、看護婦、杜協の人たちと一緒に「老いと生活を考える会」を開いている。

京滋の有料老人ホーム

施設名	所在地	最寄交通機関・駅	電話	定員
シルバーホーム衣笠	北区衣笠赤坂町	市バス 衣笠氷室町	075-462-6101	34
京都ヴィラ	北区上賀茂ケシ山1	京都バス 京都ヴィラ前	712-2800	130
市原寮	左京区静市市原町1278	叡山電鉄 市原	741-2102	20
エステート・イン洛	左京区岩倉忠在地庁363	叡山電鉄 岩倉	701-5700	45
ライフ・イン京都	西京区山田平尾町	市バス 千代原口	381-1870	300
ウェルエイジ・みぶ	中京区壬生櫛ノ宮町31 壬生寺内	市バス 四条坊城	823-3366	80
アクティバ	大津市雄琴6-17-17	湖西線雄琴駅徒歩5分	0775-78-0300	300



宇治コーポラティブハウスの試み

京都府宇治市木幡金草43番地

京都福祉生協（準）下京区松原通 ☎ 371-5552

老人ばかり、若者ばかりが集まって住む暮らしはそれなりに合理的かもしれないが、どこか問題がある。

異文化交流を楽しみつつ、世代間を越えて協力しあい老後を安心して心豊かに生活したいと誰もが願っている。

現在、福祉生協準備会が企画して宇治市にコミュニティ・ケアセンターを中核とした三世代向けコーポラティブハウス（共同住宅）が建設計画中である。

十戸のうち八戸の基本設計も済み、すでに棚や窓の細かい設計に入っているという。五月末頃より着工予定で九月末には完成、十月には入居できる（なお、二戸はまだ募集中）。

建設計画によると、一戸あたりの平均面積百三十五㎡（約四十一坪）、建物九十㎡（約二十七坪）で平均価格は約四〇〇〇万円。今後は社会福祉法人化し、運営してゆくことを考えているという。

コミュニティ・ケアセンターでは、入居者、周辺の組合員、地域の方々との接点を模索しつつ、健康、介護相談、家事や介護の援助、デイケア（リハビリ、給食、入浴）、学童保育や各種教室などの開催なども予定しており、高齢者や障害者にやさしい街づくり、地域の暮らしの質的向上を目指している。

住宅の設計から全体の計画までみんなで話あうこのような新しい街づくり、住宅のつくり方、買い方が今、熱く注目されている。

京都生協くらしの助け合い活動

京都市左京区下鴨高木町下鴨生協同組合二F
☎ 〇七五七二二二二 会員制

老後を迎えるにあたって、何とか組合員相互の助け合いができないものかと、二年の準備期間を経て八六年スタートした。地域差を考え、地域に根ざすということで活動を左京地域に限定し、「くらしの助け合いの会」会員制をとっている。

活動の三つの柱として、①不時の際の②日常生活における③生協をこえた地域での助け合いを掲げ、掃除、洗濯、食事づくり、話し相手、通院介助、主婦の急病世帯への家事援助、子供の送迎など、家庭の主婦の誰でもができる範囲での無理のない助け合いをしている。対象は高齢者だけに限ってはいないが、過半数は老人世帯の世話である。

ただ、期待されすぎるのも困りもの。家族の代わりではなく微々たる助っ人『ピ（微笑）スケット』だからできることから少しずつ、という思いが人の輪を広げている。

例えば月一回の「お食事会」は、配食サービスも含めて会の大きな行事のひとつ。老人の食生活を守り、出合いの場を作り、地域で寂しくひとり暮らしをしている人の楽しみとなっている。

豊かな国といわれる日本の貧弱な福祉対策。その中で真摯に取り組む区市町村がある。ここに掲げたのはほんの一例である。

●山口県御調町

御調町は人口およそ八千五百人。かつては寝たきりのお年寄りが多かったこの町も病院長山口氏率いる「公立みつぎ病院」や町の斬新な取り組みで、最盛期の三分の一まで減っている。

十数年来取り組んでいるのは、保健婦ホームヘルパー、PT、OTの療法師、介護福祉士による在宅ケア。病院内に設置された健康管理センターには行政の保健、住民課の福祉部門を設け高齢者の窓口を一体化。「日常生活がリハビリ」を基本に在宅ケアスタッフによる個人にあった住宅改造の徹底化。センターでは町のお年寄りの総ての動向を把握している。

●東京都・江戸川区

区長の勇氣ある決断で実現したのがお年寄りのための「住宅改造事業」。改造費は全額を区が負担する（ただし新築や大がかりな改造で六百五十万円を超えるものに対しては年二％、十四年返却）。

申請は電話一本でもすぐ来てくれるシステム。ちなみに京都市は貸付金については目下検討中。果たしてどんな結果になるのだろうか。

●大阪府大東市

大東市にはリハビリテーションを専門に扱う「リハビリテーション課」がある。課の職員は八名、全員が専門職。訪問リハビリでは、家族へのアドバイスや改造の助言、施設での通所リハビリを行っての助言。この課を支えているのが「六〇六会」と名付けられたボランティア組織。マンパワー不足の現状ではあるが、リハビリを通しての人と人との連携、心のふれあいがありお年寄りの人達は笑顔を取りもどしている。

●福岡県春日市・社会福祉協議会

お年寄りにとって大変なのが買い物に始まる食事作り。春日市の社協では、三百六十五日、一日も休まずしかも昼夜の二回配食サービスを実施している。ボランティアの人はお正月のおせち料理など特別な時には手伝うが、調理や配達には総て社協の職員が担当。一食あたり四百二十円だが真心のこもった手作りのお弁当はお年寄りの健康に大きく貢献している。

東京都23区と京都市・福祉サービスの比較（一部）

	23 区	京 都 市
紙おむつ	100枚入りを月1回支給	無
理髪券	年6回支給	無
入浴サービス	2週間に1回無料	有料
介護券(家政婦協会とタイアップ)	年収に應ずるが最高サービスは、月に6時間券13枚が無料提供	無
老人病院等付添い	全額還付	保険還付のみ
老人福祉手当(看護手当)	月額 65-70歳は2万6千円 70歳以上は4万7千円	年額 6万円
改造資金融資	480万円を限度に利率2・2% さらに各区に助成金がある	無

●長野県長野市

マンパワー不足といわれる中で、長野市のホームヘルパーの給与は公務員並み。もちろんボーナスや通勤手当なども入る。市では「重要な任務のホームヘルパーにいい賃金でいい介護を」としている。京都市のホームヘルパーは現在、一年契約、一時間一千円、平均三万円前後の手取りが現状。

老いを考える 22冊

- 『ルポルタージュ『ほんとうの長寿社会をもとめて』 大熊一夫・大熊由紀子編著／ぶどう社刊
高齢者福祉フォーラムの記録を濃縮。デンマークの現状、精神科医師、病院長からの報告。
- 『「寝たきり老人」のいる国いない国』 大熊由紀子著／ぶどう社刊
朝日新聞論説委員の著者が熱い想いを込めて書き、対話をする書き下ろし。
- 『ルポ老人病棟』 大熊一夫著／朝日新聞社刊
現代の老人病棟がいかにひどい状態にあるかに鋭いメスを入れた画期的なルポ。
- 『あなたの親が倒れたとき』 野木裕子著／新潮社刊
「親が高齢に達した庶民の一人」としての目から長寿を真に喜べる社会の条件を説き明かす。
- 『高齢化社会あなたはどこに住む』 NHK高齢化社会取材班／栄光出版社刊
有料老人ホーム、特養、在宅での暮らしなどを取りあげ、老後の住まいの現状をレポート。
- 『「老人福祉」とは何か』 一番ヶ瀬康子・古林佐知子著／ミネルヴァ書房刊
- 『長い命のために』 早瀬圭一著／新潮社刊
各種ホームの現状を報告。著者は毎日新聞夕刊で“生きる悲しみ死ぬ喜び”を掲載中。
- 『体験ルポ・世界の高齢者福祉』 山井和則著／岩波新書
「寝たきり老人」の問題を追って世界各地の老人ホーム入居体験記。
- 『ボケの原因を探る』 黒田洋一郎著／岩波
- 『おばさんたちの青い鳥』 なら女性フォーラム編著／法政出版
全国の有料老人ホームのことを知ろうと体験入居レポート集。96ホームのガイド付き。
- 『死ぬ瞬間』 エリザベス・キューブラー・ロス著／読売新聞社刊
アメリカの精神医学博士ロスによる延命治療への痛烈な批判と精神的なケアを問う。
- 『老人ケアハンドブック』 鎌田ケイ子・長谷川和夫他編著／メジカルフレンド社
- 『絵でみるやさしい老人介護』 賀集竹子監修 奥山則子著／日本放送出版協会
- 『わたしの在宅看護事典』 後藤栄子著／三省堂
- 『老人と生きる食事づくり』 老人給食ふきのとう協会編／晶文社刊
- 『病院で死ぬ・終末期医療の現場から』 別冊宝島152／JIG刊
病院の深部に隠蔽されがちな人間の死をとらえなおす現場からのレポート集。
- 『エイジズム・おばあさんの逆襲』 樋口恵子編集／学陽書房
老いという体験の内実と老いの性差に迫り、社会と個人の両面からあるがままの自分を肯定する道を探る。上野千鶴子、田辺聖子、羽田澄子、富岡多恵子などを論客に迎えている。
- 『有料老人ホームいまここが問題』 樋口恵子編／岩波ブックレット271
- 『高齢化社会の在宅ケア・佐久病院の実践』 若月俊一、井益雄著／岩波ブックレット210
- 『We・シルバーからゴールドへ』 くらしと教育をつなぐWe11月号。申し込みは、225 神奈川県横浜市緑区市が尾町1161-8共学舎内
- 『ゆきあいの空』 池辺史生著／朝日新聞社刊
アルツハイマーとパーキンソン病の両親をかかえる五男一女、配偶者を加えての看病記。
- 『わらじ医者京日記』『続わらじ医者京日記』 早川一光著／ミネルヴァ書房刊
“ボケの先生”と呼ばれ老人たちとともに悩み苦しむ心情を綴った心暖まるエッセイ集。
- 『アルツハイマーよ、こんにちは』 カルドマ木村哲子著／誠信書房
アメリカで小規模老人ホームを経営する著者の悲喜こもごもを綴った香り高いエッセイ集。
- 『老いを創める』 日野原重明著／朝日新聞社刊
医師として、信仰者として老いを見続ける著者の珠玉のエッセイ集。
- 『夫婦が試されるとき』 上村達雄著／講談社刊
夫とアルツハイマー病の妻との発病前とその後の夫婦の心のあり方を綴るエッセイ。

五島列島 紀行①

遥かつづく海、 恵みの島

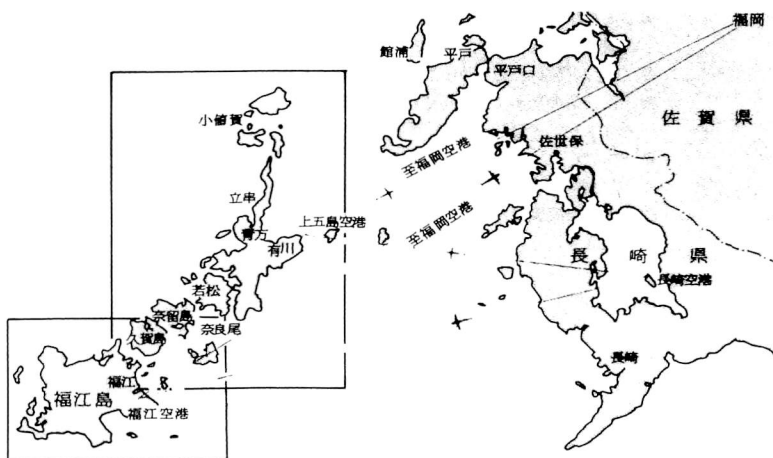
高橋幸子

大阪空港から福岡まで一時間強、

何でもある島

五島の福江空港まで一時間弱、翼があればこんなに近い。たった二時間でもう着いた。なのに京都にいれば忘れてる海、海、紺碧の海。私は

沖縄やハワイの海を見たことはないが、なぜかそっくりと確信する。まず得した気分。と思ったなら、ない！ 持参した京のお土産（柚子餅



京都TOMORROWさん、わが福江島へお見えになりませんか？

五島列島は福江市観光協会の永治さんからそんなお誘いが来た。

うわぁ五島、この国で最後に夕陽が沈む西の果て！ しかし住めば誰でもまん中だ。果てとは何事かと、永治さんに叱られそうだな。

五島とはいえ五つでなく、大小合わせて140余りの島々から成る。西方600キロほど隔てて中国大陸。中国の人々からは五つの峰が見え、元は“五峰”と呼ばれていたらしい。中で最も大きい主島が福江島、琵琶湖の約半分の大きさだ。

ほぼ3000の島を数える日本列島。だが昨今、離島は過疎化が進み、伝統保護カリゾート開発か、いやどう守ってどう開くか、今その歩みと方角が問われる。その課題は古都京都と似ていなくもない。親しい気分で相棒とふたり、五島へ飛んだ。

と野菜煎餅」を福岡空港で忘れたらしい。永治さんが「いただいたことにしておこう」と慰めてくださる。

目をあげれば空がまぶしい。雄大な鬼岳が稜線ならかに黒々と広がっている。「鬼岳が黒いのは三日前にね、原因不明で八割がた焼けたんです」と永治さん。つまり普段はオール芝草、そして三年に一度山焼きする。今年はその当たり年で焼こうとした矢先、勝手に焼けてどうしたのか、面喰らっている最中という。だがいかにもお陽さんに近い明るさと暖かさ。思わず上衣を脱いだ。鬼岳は福江島のシンボル、数万年前の火山活動でできた臼型の山だ。山頂から福江市の全景が見渡せる。そのむこうには松島のような多島海が……あ、思い出した。私は旅先でかさばる鉢植えや、潰れやすいトマトを買う悪い癖がある。だから今回家人は「何も土産はいらん」とくれぐれも念を押し、「その気なら島を一つ買ってきて」と笑った。

あるぞいっぱい、待っている家人。振りむけば赤島、黄島、黒島も浮かんで島だらけ。百四十余りのうち二十六島に人が住み、あとは今無人島ときく。六畳一間の小さな島も。だが島は根の深い藪どころか地底でつながり、浮かんた陸地だけを包んで持ち帰ることはできないのだ。

まっ青の海面をコントラストも鮮やかにピンク色の船が走る。島を渡る定期便のよう、手を振ってみる。

静かな入り江では真珠の養殖がなされ、三重あたりへ出荷されているという。五島はまた椿油の産地だが、これも大島に卸されているらしい。二十四年の歴史をもつ五島牛がいて酪農をやり、養蚕は長崎県の七割を占め、農業も行われながら、とくに漁業で活気づく。海の幸、山の幸に恵まれた五島。恵まれて逆にブランド化せず、生産地ながら売り出す拠点を他所に譲っている。言い換えるとうざうざ売り出さなくても何でもある島。暖流と寒流がぶつかりあう

五島沖の魚は種類も豊富で、主な市場の指標価格ともなる。古代より独立歩で暮らせる土地柄なのだろう。

とれとれの魚、味覚つくめ

こんな海辺で毎日すごせたら、さぞや味覚つくめだろうなあ。夜が愉しみと深く相棒とうなずきあう。

思った通り出たわ出たわ、民宿「とみ」の夕食。はしたなくも列記すると、ぶりの刺身に生ガキにワタリガニ、石鯛の甘煮、さざえのつば焼き、アジの塩焼き、イカと大根の煮物にナスの田楽、すり身の薩摩揚げに昆布巻き、さらに茶碗むしも漬物もみな手造り。これで終わらず大きい土鍋が運ばれてアラのちり鍋という。本当にこれ、ふたり分ですか？ デザートのメロンも気前がいい。ついでながら翌日の民宿「五島」でも鯛、かつお、きびなご、さざえの刺身が大皿でドンと来た。とれとれの味はコシがあつてのどごしまろ

やか、つるんと入る。次は驚き、全身が透明で尚ビクビク元気にはねている水イカの活造りだ。ふと目が合った。アラン・ドロンも負ける澄んだグリーン瞳。いただくのが辛いような恥ずかしいような。トロリと甘い。

この民宿は元網元、お客の到着を測って新鮮な魚をと今も船を出す。

さらに五島名物のハコふぐ、幾種類もの貝焼き、大根とモズクの酢物に茶碗むし、アラの味噌汁に赤飯が添えられてやはりまだ終わらず、五島牛のステーキとタタキが加わった。

ああ、私も牛になりたい。このご馳走を蓄えて京都で反すうしたいと願う。しめて宿泊は二食付き五千五百円。夕食の続きはビールと共にゆつくり部屋でいただけば、相棒と雑談の花が咲いていい心地だ。

散歩に出た。まん前が海。しかし一面闇、天の星空だけ。何と簡素な夜だろう。静かで幸豊かな海をみつめる。四百年前に紀州から持ちこま

れた鯨魚、石の穴の中にいる石鯛をモリで突く突取漁、移動するマボラの群れを石と竿を使って網に引きこむ刺網漁……漁法も豊か、長い伝統がある。ホラの卵巣は珍味カラスミの原料で、製造の秘法には三百年の年月が重なる。密漁によって近年はほぼ全滅したときが、珊瑚も五島は日本三大産地の一つだった。

「今日はおいしい鰯があがっちゃっよ」、噂はたちまち町を流れる。すると私たちは港に走る。また譲り譲っておいしい魚をもらう機会も多いのだと、資料館そばの喫茶店「島」の女主人は言った。あえて地場産業のブランドがいらないように、わざわざ加工する料理の必要もなく、魚はほとんど刺身でいただく習慣だ。

“海の道”のステーション

この喫茶「島」の落ち着いた壁面には、パッチワークの作品が大小張り巡らされていた。幻の椿といわれ

る白いふちの五島ツバキ、その名も「玉之浦」を型どった大作は特に見事だが、なんと店の奥に一畳ほどの作業場がある。端切れの引き出しとミシンが置かれて、「お客が少ないもんで待ちながら趣味を楽しんでいるんです」と店主は照れた。

五島に到着してすぐ、昼食をとったウニ釜めしの店「滝」でも目を見張ったのだった。店内の仕切りに麻縄で編んだ大のれんがさがり、草木染めの巾着袋や小物がさり気なく窓辺に並んでいた。二年前に亡くなった女将が丹精こめた遺作、まゆで染めた物だという。民宿「とみ」の女主人も多彩な料理を全て手作りで愉しみ、同級生だという「滝」の女将の魅力を語って、旅行した思い出をイキイキ話してくださった。

自分の店をいつくしみ、しゃれた趣味や愉快なおしゃべりで工夫する女性たち。第一印象にすぎないが、この大胆にしてかつ細心な生活の個性はどこから来るのだろうか。



約三万人が住む福江島。跡を辿れば五島に人が住みついて二万年の記録が残る。縄文文化、弥生文化の古代遺跡に発掘品も多く、日本最大の貝塚や最古の牛骨も発見された。

江戸や大阪の罪人、高野山の僧も流人として送られ、(続篇で述べる予定だが)キリスト教の禁教令以降弾圧時代はかくれキリシタンとして

信仰を守り続けた五島。遣唐使派遣の末期のコースともなり、ひとたび暴風雨に遭えば難破しかねない木造船に命を託して、空海や最澄などもここを最後に出港している。また江戸時代、通商のために来航した明国の人も居住していた。この時彼らが

明の手法で掘ったという六角井戸(石板六板で囲われた純中国式)を訪れたが、中をのぞくと遙か中国の井戸の底につながっている気がした。記録にはない漂流民も辿り着き、冒険家も多々訪れたことだろう。

古来より大陸との交通や貿易の中心点でもある。五島は世界の海とながってきたのだ。住む人をおおらかで力強く感じるのは、「海の道」で幾重にも鍛えられ洗われた交流文化が影響しているのかもしれない。相棒と深夜まで、ヒトの「遺伝子」論議をつづけた。

歌や踊りも盛んである。チャンコ・オネオンデ、オーモンデー、いずれも語源に興味のわくお祭りだが、

それぞれ特有の装束で太鼓を叩いて歌う古くからの念仏踊りである。他にお盆や正月の恒例行事、大漁の祈願や厄払いの民俗行事も活発で、住民の間に息づいている。

バラモンとは五島弁で「荒くれ者元氣者」といった意味らしいが、この風上げは現在、五月三日に鬼岳で行われる。私たちが耳にする町角の話題はもっぱら「鬼岳が焼けたねえ」なのだが、黒い鬼岳も風上げの五月には新芽が吹き出て、緑のじゅうたんと化しているだろう。

「観光として第二の沖繩をめざしても無理。五島の魅力が損なわれない程度、ほどほどに人が訪れてくださるといいんですがねえ」。そんな永治さんの言葉に五島の人格を感じるが、実は彼もこの島に魅かれて本州から住みついた人なのだ。

ほどほどにして多様な、花も実もある島。その不思議の謎を追って、どれ明日は車で一周してみよう。

(続く)

『精神科主治医の仕事』

塚崎直樹・著



1993年2月20日 初版
アニマ2001・発行 1560円

魂との『対話』

山本陽子 (セラピスト)

二十年間精神科治療に全力投球して来た精神科医の実践記録であり、また精神科医自らが、その実践を通して変化して来た自分の内的変化を書き著した貴重な一冊である。

精神科疾患は『魂の病』である。

『魂の病』に対して精神科医は何をしうるのか？精神科医が出来るのは患者の「自己治癒力の発揮を促す」事であると言う。これは一般によく

言われる事なのではあるが、具体的に正面から真剣に人間の自己治癒力について取り組んだ精神科医は少ないのではないだろうか？著者は患者と正面から全力投球で『対話』する事により、その患者の「自己治癒力の発揮を促」しつつ、患者の生き様に同行して行く。そしてその患者自身も気付いていないかもしれない生きる事、死ぬ事、そして人間存在の

本質的意味を感じて、明確にして行く——といった著者の真剣な臨床態度が具体的症例を通してよく伝わってくる。

『対話』は精神科治療の最大の手法である。しかし、ここである『対話』は我々が日常で行っている話し合いとは次元が違う。『魂の病』が癒されるためには、「それぞれの人間が自分で確かだと思っている次元よりさらに深いところ」と『対話』することが必要である。「さらに深いところ」はもはや「この世」という次元では考えられないものである。それは「あの世」に通じるものであり、宗教的視点をもつ事なしには考へる事は出来ない。著者は『「あの世」と「この世」の回路を開くことなしに『癒し』は実現出来ない』と言う。そうすると当然治療者自身が「あの世」と「この世」の回路を開く事が求められる。著者は自ら宗教的『行』をする事でその回路を開いて来た人である。だからこそ患者の

京都発 新刊三冊

京都の老舗、和菓子など多数の京都案内をものにしている著者が、京都市内および近郊の名水を案内する。京都は山紫水明の都と言われ、豊かな地下水に恵まれているが、近年多くの井戸が消え、また水も汚れてきた。しかし、ボーリングをして名水の復活をしている神社も紹介されている。



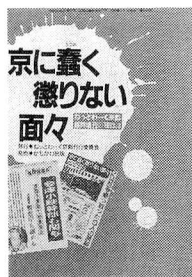
駒敏郎・著
本阿弥書店 1800円

『京洛名水めぐり』

魂の深い叫びを感知出来、またそれを言葉にする事が出来る人なのである。

こうした非常に深く、重い内容なのだが、文章にしにくい何かを、ユーモアあふれる語り口で、川の流れるごとく流暢な文章にして読ませてくれる。読者はとにかく一気に読める。そして読んだ後に自分の魂の奥深い

所に何かの変化を感じる。これが読後の率直な感想である。そして自分の中のその変化をどう形あるものにして行くかは読者の今後の課題となるものであろう。その意味で精神科医療に携わる者、心理治療家だけでなく、広く生きる事に何らかの疑問を持った人、いや何も疑問を持たずに生きている人達に読んで欲しい。



ねっとわーく 京都
刊行委員会・発行
かもがわ出版 1600円

『京に蠢く懲りない面々』

京都の出版業界では珍しく話題になっている本。雑誌「ねっとわーく京都」に連載している表題の記事をまとめたもの。京都の裏の話をタイムリーに扱ったこの連載は、新聞にはなかなか掲載できない内容を含んでおり、評判が良い。京都の裏情報入門にはお薦めの一冊。

八瀬さん、壬生さん、高野さん……と症例を読み進めて行くうちに、京都の土地を巡り歩いているような感覚がして来る。もしかしたら京都という土地の持つ、個人を越えた奥深い、代々受け継がれた計り知れないものが症例を通して伝わってくるのかもしれない。



小椋純一・著
雄山閣 4500円

『人と景観の歴史』

著者は植生景観の歴史の変遷を研究テーマとしている研究者。この本では京都の近郊山地を絵図面や古い写真と比較して、過去の京都近郊山地の植生を追究する。少し高額だが、古い京都の状況をじっくりと調べたい方には探偵小説を読むような面白さがある。

べんちゃん日記

③

弁護士 唯野井冬郎

特養の献立表

●月●日

三月も半ばと言うのに、今年はまだ寒さが残る。午後六時、Yさんの事件の打ち合わせ。支援の方も六人集まり、今後の作戦を練る。

Yさんは、昨年の三月に市内のある特別養護老人ホームに調理員として就職した。この施設には約九十名の老人が生活をしている。ところが、Yさんは、毎日、大量のおかずが残り、これを調理場の人が当然のように持って帰るのに驚いてしまった。よく見てみると、はじめから皿に盛らないで自分たちの持って帰る分を確保している。Yさんが持ち前の正義感から改革を図ろうとしたが、逆に周囲からいじめに会い、ついには十月にホームから解雇されてしまった。職場の平穩が保てないという理

由である。まさに「悪貨は良貨を駆逐する」である。

Yさんは、このような老人ホームを放置しては中にいる老人が可哀想だと考え、反省をうながすためにこの老人ホームに損害賠償請求の訴訟をすることを決意した。

さて、この裁判の行方はいよいよ紹介するとして、今晚の会合では、この老人ホームの昨年の八月の献立メニューをじっくりと検討した。まず朝食は毎日毎日パンと牛乳だけ。老人ホームによると、嗜好調査で朝食はパンを希望する人が多かったからだとのことである。この年代で果たしてそのような回答が多かったのか大いに疑問だが、仮にそうだとしても、毎日パン食ではいやにならない方がおかしい。本当の理由はパンだと調理の手間が省けることである。老人ホームの名譽のために言えば、

全ての老人ホームがそうではない。参考にした別のB老人ホームの朝食メニューは、パン食、おかゆなどバラエティに富み、またパン食の場合でも必ずおかずがついている。

昼食、夕食も手抜きがひどいことは、B老人ホームの献立と比較すると一目瞭然。例えばカレーライスにしても、この老人ホームでは牛肉と玉ねぎしか入っていない。B老人ホームではニンジン、ジャガイモ、グリーンピースなど野菜が豊富に入っている。おかずの数も料理の手の込み方も同じ老人ホームとは思えない。さらにこの老人ホームでは減塩食が必須な老人が数名いるが、おかずの種類は何の配慮もない。他の人と同じように塩サバ、塩鮭が出される。せいぜいみそ汁を半分に減らすことで減塩したという。

いずれの老人ホームも一人当たり

月約二十七万円の措置費が国と自治体から提供される。条件は同じである。老人ホームを選ぶ時はまず献立メニューを見て選択すべしとは食意地の張る者の言い分であるが、しかし、この老人ホームでも入所するのに二、三年は待たなくてはならないそうだ。現実には厳しい。

弁護士への愚痴

○月○日

このところ、むやみに原稿を書かなければならない仕事が多く、昼も夜も分らない生活が続く。本来の弁護士の仕事も、原稿書きもいづれも時間に追われる仕事で、着々と命を縮めているように思う。特に最近是不況を反映して、暗い相談が多くストレスはたまる一方である。

久しぶりに思い立って、午前中T病院に検査に赴く。

検査は血液、尿、レントゲン、そして超音波による診断。最後にS医師から判定をいただく。S医師は我

輩のおなかを触りながら、「毎日相当神経を使っているようですね」とのたまう。さすが名医である。日頃、我輩の神経の図太さを揶揄している周りの人間に聞かせてあげたい。さて、診断は慢性疲労症候群、自律神経失調症と出た。要は疲れと睡眠不足。

事務所への帰り道、これからのことを考える。弁護士という職業はどうも健康に悪い。精神的にも肉体的にも然りである。人の困っていることを引き受けて処理するという仕事は、受ければ受けるほど、自分の心身を擦り減らすこととなる。我輩の世代は仕事に対してガムシアラ型が多く、事実既に何人かの友人が倒れている。自由業には定年制はないが、そろそろブレイキをきかす年齢になったのだろうか。と、思いつつさししまった仕事の段取りで現実に戻る。今日の午後は遺言の相談がある。八十九歳の独身の女性で、かなりの不動産や預金がある。遺言がなければ、

ば、国に帰属してしまうことになる。しかし、死んだ後の遺産の配分は遺言で解決するとしても、亡くなる前に、在宅のまま急にばけてしまった時の財産管理は遺言では解決しない。財産があっても、不動産を売却したり、銀行から預金をおろしたりできなかったら、何の意味もない。とにかくお金があれば、病院に入院したり、老人ホームに入ることができると。

この場合の対処として、弁護士に財産管理についての包括的委任状を渡しておく方法が考えられるが、その効力に問題がない訳ではない。委任を受けた弁護士の責任も大きいから、これを監督する機関もない。もう一つは家庭裁判所から禁治産者の宣告をもらって後見人に就任する方法がある。後見人であれば家庭裁判所の監督の下に財産の処分をすることができる。しかし、この方法は緊急の場合に間に合わない。安心して老人がぼけた時の財産管理を人に任せられる良い方法がないものだろうか。



扇骨塗師

榎木弘次さん

— あでやかな京扇子、
その骨とつきあって —

扇骨塗師屋、50歳

東山消防団の副団長

さやまち
鞘町に生まれて住んで50年。

別に苦勞もせんと

京都TOMORROWですか、パ
ラペラと見せてもらいました。まあ
面白かったけど、ひとつ違ってたで、
これ（追跡・京都の町内会特集）。
消防は区単位になると消防団言うて、
分団とは言わへんねん。

消防はわし、十八の時に入りまし
た。去年、貞教消防分団の分団長か
ら東山消防団の副団長に変わりました。

た。本職の塗師屋より長いんどすわ、
ずっと。ゴルフも仕事より長い。今
みたい流行するだいが前からやって
てね……。

若い時は遊びまくってましてん。
ま、ワルやってた。と言うても好き
なことしてた、という意味でっせ。
家を出て一人ぐらししたり、趣味の
車を乗り回したり、乗ってへんのは
ベンツだけとちがうやろか。

よう居ますやろ、言うたら「運の
ええ子」。別に何の苦勞もせんと、
暑い夏は暑い言うて、寒い冬は寒い
言うて、大人になったら何になるう
なんて、将来も考えたことなかった。

親父が弱ってきてそろそろ落ち着
こうと思うたら、家が塗師屋やった。
それぐらいの気で二十七歳、所帯を
持ってから始めたんやけど、あれか
ら二十三年も経ったんか……。

ちゃんとと言うと、「扇骨塗師屋」
と言うて、扇子の骨に漆を塗る仕事
ですわ。おじいさんの代もやってた
し親父もやって、ついでにわしもやっ

て、この辺りが京扇子の発祥地。す
ぐそこ、五条木屋町の角行かはると
扇塚というのが建ってて、何や謂れ
が書いたありますわ。この仕事は子
どもの時分から見て育ったし、一時
間五円とか十円もろて手伝わされた
りもして、門前の小僧ナントヤラや。
自然に覚えました。

と言うても春夏秋冬、仕事のコッ
は季節に応じてちがう。一年の経験
を一回と数えて十回経験すると、一
人前やと言われます。わしも塗りだ
けは自分で志願して奉公しました。
仏壇塗師のとこへ見に行ったり聞き
に行ったりしてね。



塗師屋の仕事

一本の扇子には親骨が二本、あい
だに中骨があります。舞扇の中骨は
十間、バチ扇（三味線のバチの形を
したもの）は十六間、花嫁扇は十八
間、他に茶扇やらモーニング扇やら
坊さんの持たはる中啓やら、種類は

いろいろあるけど例えばね。正月に使う茶扇なら作る方は反対に、夏が忙しい。この辺りはほとんど儀式扇を扱って祇園界隈に卸してます。

一本の扇子が出来上がるまで、大きくいうと十六業種あってね。一業種の中でまた五つほどの工程に分かれてたりするけど、塗師屋の仕事は期間で言う二十日間はかかって一番長い。

材料の竹は「間竹」言うて、滋賀県の安曇川から来るんですわ。割り箸みたいなバラバラの状態でね。

それを階下で嫁はんと息子がタワシで磨いて、ニカワとゴ粉を混ぜて下地を作る。その後わしがここで塗るんやけど、種類によっては下地に中地をくりかえして何回も塗ります。

塗りはね、まず漆を小出ししてシンナーで薄めて、吉野紙（奈良の吉野から来たコシ紙）で不純物をロカする。バラバラの骨をさしにさして、その漆の汁を塗っていく。

ハケは何本もいらへん。馬と猫の

毛を混合したもんやけど、三本あったら間に合う。鉛筆と同んなで順々に削り出して、自分の手になじますわけや、慣れるのが大事です。

親骨にはたまに貝殻をはめこんだり、塗りにも見限り、ねごろ塗り、すなごと方法はあるけど、普通は無地塗りが多いね。色は問屋はんの好みを覚えというて決めるんやけど。

みな手塗り。機械で塗ってるとこもあるにはあるけど、すぐとれる。

若い時は一日に千本の骨は塗りましたなあ、今は八百本くらいやろか。始めは漆によう負けて・・今も負けることある。波も塗りまっせ、竹のささくれがとまったりする。どの工程も微妙、ちよっとしたコツですわ。



ムロを開ける時が
怖い！

仕事は仕事、楽しいとか辛いとか考えたことはあらへんけど、塗った後ムロに入れて、一週間ほど自然乾

燥させます。ムロを開けるその時だけは怖い！ お茶碗焼かはる陶芸家と同じかな、緊張します。

漆の性格としてね、急に乾かすと竹が縮んだり割れたりする。ほんで濡れたバスタオルをこうして床に敷いたりして、ゆっくりゆっくり、つまり湿気で乾かすわけですわ。湿度は八十%、機械は使わんと勘で調節して乾燥させます。

うちの作業がすむと、要屋さんが骨を引っかける。骨に穴を開けるのはかがり屋さんで、すそを削るのは削り屋さん、他につけ屋さん、地紙屋さん、折屋さん……と問屋に卸されるまで、扇子はずっと旅をつづけます。

ほて茶扇は二、三千円から、舞扇は七、八千円から、小売りの店頭に並ぶわけやけど、えろうアンタ、話を深う聞かはるなあ。最近珍しがつてちよくちよく取材に来はるけど、誰も写真撮って二、三質問して「ご苦労さん」や。こんなに聞かはらへ

んで。興味あったらハハハ、やってみはるか？ この仕事はしてる人が少ないし、真面目にやったら儲かりまっせ。

そやけどコン詰める仕事や。昼頃から始めて晩の十二時か一時まで、ここにある（仕事部屋に設置されている）ゴルフのミニセットで息抜きもするけど、六、七時間は集中せんならん。働き蜂見たい、そんな真面目にやられてられへんねん。三日にいったんはゴルフに行くし、なじみの店には飲みにも行くし……そやそや若い時は、飲み屋でこの指を見られるのがイヤでねえ。漆職人の手。それでも通いつづけて代償やろか、心臓を悪うして一晚入院したことがありますなあ。



喰えるだけの仕事で生きてます

まあ喰うて飲んで、その分を見計らうて仕事するさかい、銭はたまりまへんなあ、そういう人生や、わし。

喰えるだけの仕事で生きてます

シーツ、動かんというて、そろっと歩いてんか。この仕事はホコリが禁物ですねん。漆が嫌う。ちよっとしたホコリも上から塗ると、ほれ（表面がかすかにデコボコした失敗作を見せて）こんなに目立ちます。もうボツやねん、この骨。

仕事中は着る物も、ホコリのつかへんナイロン製ばかり。格好つけてられまへん。

そやけどわしは、ええ嫁はんに恵まれてねえ。働きの者で切り盛り上手で、わしなんぼワル言うても嫁さん泣かされへん、泣かしたことあらへんで。子供は三人できたけど、長男もまたこの稼業を継ぐことになって、思えば父親のわしだけが不良だすわ。

そやし、というわけではないけれど、息子にはやかましいことイチイチ言いまへん。十二年前に死んだ親父も、わしに細かいことは言わへんかった。いや「腹減らしに仕事してんのか！」と、時に皮肉だけを言わ

れたなあ。今から、仕事に一生懸命とはとても言われへん。消防団やらゴルフやら飲み歩きその他に、少年が大人になったという感じにすぎんけど、地元の少年野球チームの監督もやりました。

仕事以外に、そういう趣味やら道楽を愉しんで暮らしてますさかい、塗師屋の道何年なんてあ恥ずかし。そんな気あらへん。たまたまやって二十三年ってとこ。

そやけどおかしいなあ。この鞘町で生まれて育って、子供の頃は十一人の同級生がいました。今ここで家の仕事をしてるのはそのうち二人だけやし、職も住まいもいっしょで住みつづけてるのは、わしだけになりました。ずんずん年齢とともにね。地域も見えてきたんやろか、「この土地にわしがおらんと！」という気が出てきて、これを自負心と言うんやろか。若い時分の自分、まあプー太郎を思い出すと、ホンマに不思議なことですわ。

（高橋幸子）

現実と 創造の

はざまで

沢田都仁 (出版業)

五年あまり勤めた出版社から独立して、はや二年がたとうとしている。酒びたりのその日ぐらしが続いていたため、何の蓄えもなく、まずは事務所兼自宅を探して見つかったのが、比叡山と一条山の山間にある現在の住み家だ。飲み友達の紹介で破格の条件で借りられた（ノンベエ仲間を持つべし）。おそらく、京都市内で最北端の版元ではないかと思う。こんなところへは誰も訪れてくれないのでは、というのは杞憂で、結構

宴は開かれ、遠方より来客ありては酒、来客がなくても酒という日が過ぎ、そうやって昨日も過ぎた。

別に世をすねたという訳ではないが、五百部でも売れる本を、という企画のジレンマの中で、のんびり構えてやっていこうと居直るような気持ちでいた。

どの分野でも、故意に事（件）をでっちあげて、人の眼をひきつけようという風潮がみられ、その実、見えるべきものが見えてこない……そんないらだちの日々がつづいている。こんなやり方では、次から次へと追いたてが続き、いずれ永遠の退屈だけが、底に顔を出すことになるのは、何ものによっても埋められない倦怠だけが残るのでは、という予感だけが拡がっていく。

「本来見えないものを見るようにすること」（P・クレー）、それが創造ということだとすると、今自分がやっていることも含めて、見えているものを巧妙な仕方で見えなくさ

せるという奇妙な隠蔽が、創造的活動の名のもとになされているのではないかという、反省と諦めに似た気持ちになる。

といっても、酒の日々は相変わらずつづき、これも酒杯の奥にたまに顔をのぞかせる幻想かも知れず、ささやかな仕事ではあってものんびりともいかず、流されているだけなのかも知れない。

ただ、もらわれてきた時は、やせて異様にしっぽが長く、ネズミのようだった子猫だけは、少しずつ「猫らしく」なってきた、相変わらず細かい声でしか啼けなくても、外ではけっこう風を切って歩いているようだ。

それに付れて、在庫の山は、まず玄関を占拠し、つづいて階段をかけるのぼり、二階の小部屋を次々と占領しはじめている。この山が再び、階段を下り、外へ出ていけるのかどうか、できたら、胸を張って出ていくてくれることを祈りたい。

京都市議会、お前もか

昨年来、尼崎市議会は、カラ出張問題で大きく揺れており、市民グループの突き上げで、市文書公開条例を改正し、議会文書も公開の対象となることになった。

しかし、この京都では京都府も京都市も議会情報は公開の対象となっていない。

ガラス張りの府市行政を求める市民運動グループ「グループ市民の眼」では、京都でも市議会の出張情報の公開を求め、また議会情報も対象とするように条例の改正を求める運動に取り組んでいるが、三月二十二日これまでの市、議会、議員等の対応を明らかにした。

これによると、議会に対して議長議員に対して出張費の公開と条例改正を求めたところ、共産党と社会党

だけが条例改正に向けての取り組みを表明したものの、他党は沈黙。しかも、共産、社会とも過去の出張費の公開については、一切触れない内容であった。「グループ市民の眼」では、市情報公開センターに議員出張費及び市長代理で出張した議員の支出命令の公開を求めたが、これも「議会との関係がまずくなる」との理由で公開拒否。

「グループ市民の眼」では、この公開拒否に対して審査請求手続きをとるとともに、情報公開運営審議会に対し、条例の運用、解釈について申し入れを行った。この申し入れでは、議会が公開対象機関に含まれていなかったとしても、支出命令は市の情報であるから、非公開とすることは条例の趣旨に反するものであると主張している。堺市の例では、条例には議会が対象となっていないが、支出命令は公開されており、その結果数多くのカラ出張が明らかとなっ

た。

関係筋からの情報によれば、尼崎事件以来、京都市議会でも戦々恐々で出張費の請求がほとんどないとのことである。

なお、九一年六月に京都市の条例が成立した際、議会に対して条例の中で対象機関となるか、議会独自の公開条例を作るかが求められた経緯があり、議会の独自性が尊重されて今日に至っている。しかし、既に二年近く経った現在まだ議会は調査検討中というところでこれに応えていない。朝日新聞の調査によれば、全国二一五自治体の調査で過半数が議会を対象としているとのことである。

京都市予算に見る

福祉、医療、環境

京都市の本年度予算は、バブル崩壊の影響で苦しい状況の中であるが、市債発行等で前年度比五%の伸びの

積極予算となった。

本号の特集と関係のある高齢者対策としては、特別養護老人ホームが一六〇床増設、老人デイサービスセンターが二一カ所（現在一六カ所）に増設、ホームヘルパーが一四五〇人（現在一一五〇人）に増員、在宅介護支援センターが一三カ所（現在一カ所）に増設される。予算としても重点項目であつたろうが、まだまだ不足である。

他の福祉関係予算では、身体障害者デイサービス施設が六カ所（現在四カ所）に、エイズ無料検査の実施、健康増進センターの設置なども計画されている。

都市計画関係では、二条駅周辺整備、山科駅前再開発に大きな予算がつき、本格的に始動する。JR山陰線高架化、東西線建設、地下鉄烏丸線延伸にも大きな予算がついている。

注目すべき項目は、電線類の地中化（岡崎、四条堀川、花見小路、高

台寺周辺）、梅小路公園整備、木屋町通り、大宮通りのコミュニティ道路整備、街路樹の剪定した枝葉をたい肥化する施設の建設、山村都市交流の森整備、岩倉図書館建設、西部文化会館建設、御池通シンボルロード調査費、使用乾電池処理費、石塀小路（東山）の伝統的建物群保存地区指定のための調査費、伝建群地区への補助金の増額、屋外広告物条例の規制強化のための調査費など。具体的に市民に明らかにされていない項目も実際にどのように実施されるのか注目する必要がある。

建都一二〇〇年記念事業としては、京都国際マラソン開催に三億円、国際映画祭準備、都市緑化フェア、「甦る平安京」展に一七億七〇〇万円、コンサートホール建設に五三億九三〇〇万円が計上されている。

（折田泰宏）

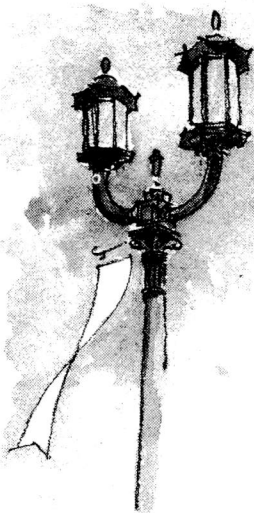
活力京都・伝統とゼニが会おう街



Y. ISHIKAWA

イラスト時評

Y. ISHIKAWA



建築探偵団調書

⑤

——祇園石段下街灯

円満字洋介

(往生活研究所員)

汽笛が冬の夕空に長く尾を引いた。この停車場からそう遠くない機関庫から聞こえてくるのだろう。武田は停車場二階のレストランで新聞を読んでいた。他の客は誰も無く、スチーム暖房の流気音だけが微かに響いていた。手持ち無沙汰のボーイ長はぼんやりと外を眺めていた。つい先月まで巨大な大礼門がこの窓一杯にその姿を拡げていたが、今は撤去され

窓外には以前の通り郵便局の建物越しに東本願寺の大屋根が見える。先程から鼻をクスンクスンと鳴らしながら一心に新聞に見入っている唯一人の客が、その白垂の大礼門の設計者であるとボーイ長は気付かなかった。広場へ鈴の音と共に市電が廻ってきた。騎馬の巡査が笛を吹きながら人を払っている。ボーイ長は窓のレースを通して指し込む光が一段と弱くなった事に気付いて食堂のシャンドリアへ明かりを入れた。

外電の伝えるヨーロッパ戦線は一進一退であった。彼は紙面の記事を拾いながら遠いウィーンの友人を思い起こしていた。ヴァーグナー教授やホフマン達は戦雲下のウィーンにあって何を考えているのだろう。先年、議事堂調査団として彼地を訪れた時は夜が更けるまで新しい時代の工芸運動と都市美について論じ合ったものだった(この三年後、オーストリア・ハンガリー帝国は崩壊し、ヴァーグナー、クリムト、モーザー

らはウィーンに殉ずる様にして共に世を去った)。彼は新聞を押しやると眼鏡を外して席を立った。

停車場の外へ出ると夕暮れの中にそれは蹲っていた。欧米調査から帰朝した彼が特にウィーンのトラムを思い描いてデザインした市電の貴賓車であった。駅前に置かれたそれは、恰も一個の展示品の様であり、埃っぽい広場にあつて塵ひとつ着けずエナメル的車体を滑らかに光らせていた。車体を限取る二本の直線とその交点に打たれた正方形は確かにコロマン・モーザーのポスターに通ずる分離派のモチーフだ。今は敵国であるウィーンの薫りがそこから仄かに立ち登っていた。ホフマンと最初に出会った時、トラムに乗せられてリングを巡った記憶が突然甦った。

貴賓車の前から巡査に追い払われた彼は腕車を拾い烏丸通りを北へ向かった。大寺院の新しい大門は既に固くその扉を閉ざし傍らの蓮華を形取った大噴水も水を止め夕闇の底へ

沈もうとしていた。腕車の騒がしい音に身を包みながら彼は遠く夕日に輝く一点を見つめていた。それは四条通りとの交差点に先年竣工した大銀行のネームプレートであった。やがて眼前へ近づいた大銀行は夕映えの中で巍然と聳えていた（三井がこの最上のロケーションを押さえているのは三大事業を完遂させたフランス債の発行を一手に引き受けたからに他ならない。不況下に引き受け銀行の無かったこの市債を救ったのが市長候補を要求された三井家であった）。

腕車が交叉点を渡って東へ向きを変えた時、何処からか巡査達が駆け寄り一斉に交通を遮断した。彼は訝しげに鼻を鳴らしながら辺りを見渡すと薄暗い烏丸通りからガス灯の下へ先程の貴賓車が唐突に現われた。滑る様に車体を回転させるその轟音の中で彼は貴賓車の窓に二人の人影を認めて一瞬息を呑んだ。ひとりにはヨーゼフ・ホフマン教授、そしても

うひとりには武田自身の姿であった。二人は窓外を眺めながら楽しげに言葉を交わしていた。

彼の腕車が走り出すと遠ざかる貴賓車は寺町辺りで車体を七色に煌かせた。彼は腕車にしがみつきながら何故あそこだけ眩しいのだろうと思つた。そして四条通りのその部分だけがガス灯が電灯に取り替えられている事を漸く思い出した。その眩しさは彼がヨーロッパの街路でどこまでも続く街路灯を初めて見た時の眩しさと同じものであった。貴賓車は見失われ、それと同時に幻覚も去っていた。腕車の騒がしい音に再び包まれながら彼はその新しい街路照明を見上げていた。

この年の大礼祭はこの街に電灯を一挙に普及させた。大礼祭の期間この街の夜は無数の電飾に満たされたのだ。四条通りの奈良物町はこの時他町に先駆けて街路電灯を導入した（当時の街路灯は市設の他に公同会が設置したものも多くあった）。武

田のデザインした電飾は大礼祭の後撤去されたが、彼には京都電灯会社の田中源太郎との約束が残された（田中は三大事業を推し進めた京都三元老の内のひとりである）。それは近い将来に街路照明を本格的に導入する際、それを欧米流に意匠する事であった。その事は四条通りにウィーンのリング・シュトラッセを幻視したこの建築家の想いでもあったはずだ。その約束が果たされるのは時代が大きく移った一九二四年の事である（武田のデザインした数種類の街路灯は戦時の鉄材供出によって失われ今は無い）。

弟子 「先生、この街路灯は何を型取ったのですか？」

武田 「君、祇園社の御祭神は牛頭天皇だよ」

弟子 「そうか、これは牛の角ですね。先生、また一本取られましたなあ」

一同 「ワッハッハッハ」

皆さんは画廊に入るのはお得意ですか？私はまだちょっと苦手です。根がビンボーなせいか、高級そうなりすました雰囲気のは特に落ち

画廊への招待

人見ジュン子

(ギャラリーヒルゲート)

つかなくて「ハテ、どんな絵を見たんだっけ」なんてこともあります。自分が画廊をしていてさえそうなのですから、一般の方々にとっては、画廊はまだまだ遠い存在なのではな

いでしょうか。どんな立派な作品を展示していても美術館に入るのに緊張することはないのに何故なのでしょう。

美術館と画廊の違いの大きな要素に、画廊は作品を売ることを前提にしているということがあります。だから普通のお店と一緒に、当然入場料はなしです。それだけに「ただで見るだけじゃ悪いし、何か買わなきゃいけないんじゃないか」というプレッシャーがかかるわけです。でもどうか気にしないで下さい。画廊は普通のお店と似ていて、やはりちょっと違うのです。「売る」という行為は「商売」そのものですが、画廊の仕事の重要な部分は、良い作品を集めて企画する、あるいは作家に発表の場を提供する、という優れて「文化的な行為」にあります。その矛盾する二つの側面のバランスをとり、潰れないで、如何に充実した仕事を続けるか、ということに、良い画廊であろうとする時の画廊主の苦労とや

りがあるのです。

ですから、自分が良いと思った企画を立てても、見て下さる方がなければ孤独だし、たくさんの方に見てもらえればそれだけで満足、というものです。もちろん、売ればなおうれしいけれど。でも気に入らない絵など買ったら邪魔になるだけ、洗濯機や車のように働いてもくれません。美術品の価値はあくまで無用の用なのですから。

でももし、どうしても欲しい作品に出会ったら、無理をしても買って下さいね。そんな出会いが一生なければそれもよし。買うとか、所有するとかに関係なく、素敵な作品をくつろいで眺められれば、そこには一瞬の幸福があるはずなのですから。街歩きに疲れた時の心と体の休息の場所。そんなふうに親しんでもらえる画廊にしたいと、私は(多分、多くの画廊主も)思っています。さあ、どこか目についた画廊に入ってみて下さいな。

建築家のY氏からツアーを組むので一緒に行こうと誘われ同行させてもらうことにする（私も建築家を志す若者の一員なのです）。

インドの国土面積は日本の約九倍、人口は十億を越えたという。人の多さもさることながら、いろんな生き物が同居していた。牛、馬、羊、犬、

●京・若者発

インド雑感

弓場律子

（建築事務所勤務）

豚、鹿、猿、兎、鼠、ハエ、蚊、カラス、インコ、クジャク、鷺、水牛、ラクダ、ヘビ、等。またそれらの排泄物がなんの違和感もなく横たわっている（人間の排泄物とて例外ではない）。気にしては歩けない。特に牛のウンチは利用カチが高く乾燥させると立派な燃料になる。それ

で焼いたナンというパンのおいしかったこと。

日本では他人様の排泄風景などはほとんどハイ見できる機会がないため、非常に興味をそそられた。家の真ん前で子供と母親らしき人がしゃがんでいたり、赤ちゃんを腕に抱えたままの状態でシャワールの様に排尿させている人。男性

の立ションならぬすわりションを見るのは初めてだった。

「郷に入れば郷に従え」で、私も何度か参加した（街中ではさすがに無理、かげや木かげに限る）。一緒に行った日本人十人には見つからない様に細心の注意を払った。

日本に帰り京都の街を歩きながら感じたことは、人間しきいらないということだ。それもみんな同じ顔で同じ様なかっこうをしている（貧富の差が無いというか、あっても五十歩

百歩という感じ）。車がどれもピカピカ。それにこの静けさは何だろ。街はきれいだいが、生活の場という感じがうかがえない。においも音もハデな色も少ない。おとなしいというか無機質な街だ。ほんの数日間他文化に接しただけで自分自身やまわりをみつめる新しい角度がみつかる、これがあるから旅行はやめられない。

RAG

LIVE SPOT

KYOTO JAPAN
PHON 075-241-0446

ライブスポット・ラグ

〒604 京都市中京区本町通三条上ル京都エンバイヤビル5F TEL: 075-241-0446

株式会社ラグ・インターナショナルミュージック

チケットお問い合わせ TEL: 075-712-5838 FAX: 075-702-1332

創業12周年記念

古今東西強者結集!

ラグ マラソンライブ

4/13~5/9 毎夜20:00~23:00

出演

日野皓正、山下洋輔、渡辺香津美、東原力哉

桑名晴子、かまやつひろし、本多俊之

古谷充、塩次伸二、おかげさまプラザーズ他

詳しくは情報誌をご覧下さい

18:00~翌4:30

ステバあさん
が行く

⑤

只今心が
ややこしい

神楽岡ステ



近所の宮沢はん、もとは校長先生してはった。ほんでどすやるか。初めて敬老会に来はった時、一番上座に座らはった。幹事さんがあわてて「すんまへん。新しい会員さんはこっちの方へ」と、やんわり下座に誘わはったら、宮沢はんはブリツとして

「わしやこんな席に座ったことない」と出ていって、それっきりですえ、あのジジイ。

そら人の勝手や。かく言うわても敬老会はご馳走の中身、おいしい時だけ出る。そやけど問題は、下座では許せん宮沢はんの人生観や。何と肝の小っちゃい。この歳までお人見

てきたけど、わての統計では大体男はんの方がここの一番で肝縮まる。校長先生の末路がこんなんでは、日本の教育も先行き暗いなあ。

そのくせ宮沢はん、こないだ敬老会の記念品が来んと抗議しはった。抜けたんどすわ、宮沢はんだけ。記念品はお湯呑みどした。特別ほしい物ではないが、そら抗議すべきや。そやけど言うことが小面憎い。「わしや記念品なんぞいらぬが、わしの名前が抜けとることを念のため正しく」とやて。格好つけてフン、淋しかっただけやわ。

そやけど孫の貴若から「うん。最近の年寄りには可愛気が足らん」なんて口合わされると抵抗感じる。可愛い年寄りなんぞ、クソクラエと、わては心がややこしい。まあ、いちいちいばる点が実にこのジジイらしいな。

先週も団地の階段に手摺り付けてもろて「わては年寄り助かりますわ」と、わては若手の自治会長さんをね

ぎろうた。ほたら宮沢はん、「アンタとわしは歳がちがう。『わては年寄り』とは何や。いっしょにせんでもらいたい」やて。大層に言わんとさ。わては七十八、宮沢はんは七十五、たった三つ違いやおへんか。年寄りに自分が入ってへん、この男。

そやけど孫のエルに「なるほど、アンタが正しい。七十八も七十五もうちから見たら同じ年寄りやし」と同意されると、また気分は複雑や。言うときど人間幾つになつても、毎年「更の齡」を営業してるんや。自慢やないけどわては、宮沢はんの知らん七十六、七十七を生きてきましたんやで。

そらわてかて、十の時は二十が大人に見えた。二十になったら四十が大人に見えて、自分が四十になったら何やまだ若いんか。今は七十見ても若者や。みな自分の齡で見るさかい、この世を生きてるんやろなあ。

只今わては宮沢はんのスカタンを許そうか許さんとかか、悩みつづけて狂おします。ではサイナラ。

芸術でロシア支援を

韓国、中国、日本のアーティストが、ソ連解体後の混乱で音楽や芸術に飢えているロシアの人達を励まそうと、モスクワでの芸術展を企画しています。

発起人は京都在住の写真家ロバート・コウルチェックさん、画家の金明姫さん、箏演奏家の岩堀敬子さんなど。きっかけは、昨年6月にロバートさんがモスクワを訪れた際に、本来は芸術好きなロシア人が、生活難にすっかり意気消沈している様子を見てびっくりしたことから。

ロシアとも連絡をとり、既に国立中央芸術会館の招待を受け、今年の9月4日から17日まで公演と展覧会を行う。アーティストは現在三ヶ国から23人の参加が決まっている。

アーティストは手弁当の参加だが、問題は約1500万円と見込まれる資金集め。発起人らは現在必死に資金集めに走っているが、まだまだ不足。

問い合わせは岩堀さん(075-461-2426)に。

西陣織帯地卸
和装小物創作
子供和装品の製造
アパレル製品製造

株式会社

丸 池

〒602

京都市上京区堀川通一条上ル

TEL 075-431-3381

FAX 075-431-3379

ごめんない

前号の「現代の華・カラオケ文化」の中で
京都市教育委員会主任指導課と
京都府青少年課の話が入れかわりていました。
訂正してお詫言致します。

情報・写真提供のお願い

京都TOMORROWでは、今年度の特集企画として「戦時中の京都」、「占領下の京都」を予定しています。失われていく京都の現代史を記録にとどめるために意欲的な取材を計画しています。

読者の皆様で、戦時中あるいは占領下の京都について資料、写真がございましたら是非編集部までご提供下さい。薄謝を申し上げます。また、当時の事柄についてお話しただける方もご連絡下さい。

例えばこんな情報が欲しいと思いますが、どんな小さな情報でも結構です。

- ☆ 京都空襲
- ☆ 学童疎開
- ☆ 御池通り、堀川通りの疎開
- ☆ ヤミ市
- ☆ 占領軍の接収
- ☆ 空襲米軍機の墜落
- ☆ 勤労奉仕
- ☆ 占領軍の進駐

▼老人ホーム訪問には、みぞれ降る中八人の女友だちが連なり、関心の深さを見た。老いは私たちの現代を映す。「私」は今、どういふ暮らしを快適とするか、日常のライフスタイルを問う。とどのつまり野垂死が理想だ、いやそれは惨めだ、甘えだ、政治が悪い、展望と備えが必要だ、結局なるようになるしかないのだ……優先順位は個々にちがっても、この声のどれを心の内で、誰もが問答しているのではないから、もし長く生きていたら、もし元氣なら、でっかい夢がある。できれば新京極のお寺か、高島屋の屋上に棲みたい。できれば隣が名画劇場かタコ焼き屋か力餅食堂か居酒屋かパチンコ屋で、小銭の入った赤い巾着袋をさげて日参したい。ボケたらゴメン。

(高橋幸子)

▼うららかな春が巡ってきた。

庭先で春を楽しんでいると、「山へいこー」「ひらり」のテーマ曲を口ずさみながら、友人が弁当を持って現われた。近くの深泥池へ行く。

おにぎりをパクついていると目線の方向に「高原ホテル風(?)」有料老人ホーム「が嫌が応にも目につく。

「一生入れないね」「まあね」「水のゆるんだ池では鴨たちがゆったり泳いでいる。」「鴨にも老後はあるのかな」「老後? 何とかなるわよ」「何とかなる」か。もう小津安二郎の世界だ。

老後、これだけとは思っていることが二つある。「死との対峙」の際には決してあわてふためかないこと。墓はいらない。海でも山でも私のここぞと思うところにまいて欲しい。埋めて欲しい。残念ながら今の所ここぞと思う所がまだないことだ。この二つ。大いなる難問題だ。(一居時江)

▼「老い」を取材してさまざまな人に出会った。お年寄りの瞳には今、何が映っているのだろうか。有料老人ホーム、特別養護老人ホームに辿りつき、「老い」と「死」に向き合っている人たちの淡々とした命のゆらぎに心が共鳴して揺れた。他者に対してずっと心を開いていて、入ってくるものすべてを受け入れていたら、思わぬアクシデントに出会ってしまった。心が無防備になっていたことに気づく。

それにしても「老い」とは哀しい。しかし、この理不尽さゆえ、人生への謙虚さも生まれてくるのかもしれない。

(塚崎美和子)

▼今回は他の仕事との関係で私だけ少し手抜きをさせていただいたが、他の編集委員の取材は意欲的で今回も情報満載のできあがりとなった。ひたすら、敬意あるのみである。

取材すればするほど内容が豊かになる。

掲載できなかった情報は多いが、老人ケア問題は今のすごいスピードで変化している。政府のゴールドプランの進行で、「数

字が語る京都」の数字は、毎年変わっていくことになるだろうが、果たして高齢化に間に合うのだろうか。特に京都の高齢化対策の遅れは深刻である。

しばらく時間をおいて、この問題を改めて検証したい。(折田泰宏)

▼毎号のことながら、編集後記を書く段取りまでくるとホッと気が抜ける。スペースがないとなおホッとする。(松田普美子)

合評会のお知らせ

五月七日(金)午後七時より

第五号「老人ケアのゆくえ」の

合評会を事務所にて行います。

みなさんご参加下さい。

住まいがむすぶ
人間関係企業

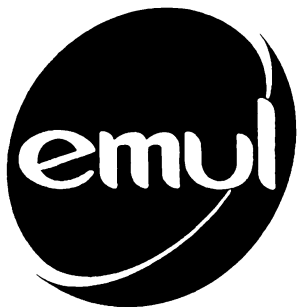
RST
アールエスティ株式会社

本社 〒600 京都市下京区堺町通四条下ル

☎075-351-4567(代)

支店 大津・宇治

営業所 山科・左京・伏見・吉祥院



エミュール

やさしい美味しさ
自然派エミュール

100%植物性アイスデザート



製造発売元 株式会社 K.B.L.
京都市左京区聖護院山王町14 ☎075-751-0138

トヨナガ設備サービス株式会社

島津理化器械研究設備代理店

ご提案から施工・メンテナンスにいたるまでトータルに管理。
私たちのハートをすみずみまで感じていただけます。

本社 京都府久世郡久御山町林八幡講9-1
☎613 TEL (0745)43-4151
FAX (0774)44-6289
関東営業所 横浜市緑区長津田1-88-22
☎227 TEL (045)984-8401
FAX (045)984-8402

研究施設、
教育用特殊施設のご用命は
トヨナガへ

京都 1993.5

TOMORROW

Vol.2 第5号(通巻27号) 定価510円(本体496円)

隔月刊誌

発行 株式会社・京都TOMORROW

代表 豊永家明

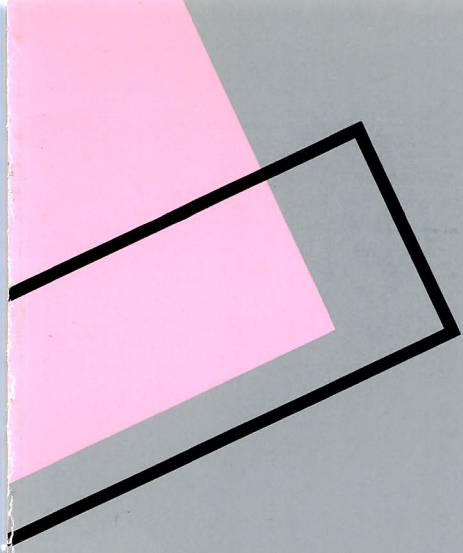
編集委員 一居時江
折田泰宏
高橋幸子
塚崎美和子
牧野文夫
松田普美子

〒606 京都市左京区吉田神楽岡町8(楠本方)
TEL075-771-4375
FAX075-771-9837

ご購入ご希望の方へ

- 1部購読 510円(送料込み 685円)
- 年間購読 3,060円(送料込み 4,000円)

ご購入希望の方は、郵便振替・京都2-20274
京都TOMORROW



ISSN 0915-1036

定価510円(本体496円)